

大都市における社会生活上の居住性(その3)

多摩ニュータウンと共同性・社会関係・社会的地位

3. 集合住宅住民の諸類型

クラスター分析による住民類型構成の試み

高橋 和宏* 野辺 政雄**

要 約

活動参加と付き合いに基づいて、都市の集合住宅に居住する住民(既婚主婦)の類型を設定することが、本稿の目的である。このために、井関らが首唱するクラスター分析によって類型を構成する方法を利用した。分析によって、次の3点が明らかになった。

第一に、住民の活動参加や付き合いを分類する第1軸は地域内活動参加と近隣付き合いに対する消極-積極対処の軸であり、また、これは、地域内活動(近隣付き合い)-地域外活動参加の軸でもある。第2軸は、自主加入型-受動加入型関与の軸である。

第二に、析出した6つの住民類型とそのプロフィールは次の通りである。「広域型」住民は、中・高学歴である。まだ子供を儲けていないので、常勤の職業を持つことができ、仕事を生活目標としている。彼らは、自主加入型の地域外活動に参加している。「孤立型」住民は、中・高学歴であり、無職である。彼らは、地域内・外の活動と付き合いに関与していない。「地区型」住民は、低学歴で、長子修学期のライフ・サイクルにある。無職で、子供の養育を生活目標としている。彼らは、地域内活動に参加し、近隣付き合いを頻繁に行っている。「近隣型」住民は、低学歴で、長子幼児期か修学期のライフ・サイクルにある。無職で、子供の養育を生活目標としている。彼らは、受動加入型の地域内活動に参加し、近隣付き合いを頻繁に行っている。「地区自主活動型」住民は、低学歴で、長子修学期のライフ・サイクルにある。子供の養育が少し楽になり、アルバイトかパートタイマーとして職業を持っている。彼らは、地区型住民よりも積極的に自主加入型の地域内活動に参加している。「広域自主活動型」住民は、中・高学歴である。子供をまだ儲けていないので、常勤の職業を持つことができ、仕事を生活目標としている。彼らは、広域型住民よりも積極的に自主加入型の地域外活動に参加している。

第三に、あらゆる社会参加でなく、自主加入型の活動参加や付き合いが、生活の満足度を高める。

1 問題の所在

人々は、生活の営為の中から、各種の生活上の欲求を持つに至る。彼らは、これらの欲求を個人あるいは世帯として充足できぬとき、他の人々と協同することによって、それらの充足を図ろうとする。そこで、地域、職場、及び任意社会圏¹⁾(地域と職場以外の生活空間)にお

る集団や社会関係を利用することによって、それらの欲求を充足している。

ただし、産業化や都市化²⁾の進展した社会では住居と職場が分離し、社会移動が頻繁となるから、地域のコミュニティよりも職場を中心に形成される集団や社会関係への帰順や関心が高まってゆく。そして、地域集団や近隣付き合いが解体し、住民の多くは孤立した生活を余儀なくされている。これに対し、行政は、コミュニティ施

〔筆者注〕本稿は高橋の指示のもとに、野辺が分担してデータの分析・執筆を行なったものである。

* 東京都立大学都市研究センター・人文学部

** 東京都立大学大学院生

設を作り、地域活動を振興することによって、地域集団や近隣付き合いを活性化させ、連帯感を高揚しようとしている。³⁾

こうした日本社会の動向のゆえに、現在、都市社会学で、望ましい地域集団や近隣付き合いの形成が一つの研究テーマとなっている。

これらを考慮した結果、筆者は、どういった住民がある集団に参加するかや多くの近隣付き合いをするかだけでなく、住民が自らの生活上の諸欲求を満たすために、地域、職場、及び任意社会圏の活動⁴⁾と付き合いに総体として関与するパターン(住民類型)に感興を覚えるに至った。本稿の目的は、活動参加と付き合いに基づいて、都市の集合住宅に居住する住民(既婚主婦)の類型を設定することである。後述するように、この目的に沿った研究成果は徐々に蓄積されつつある。この知見を踏まえ、本稿において次の三つの課題を据えた。

第一、いかなる座標軸で活動参加や付き合いを分類し、住民類型を設定したらよいか。

第二、析出した住民類型はいかなる個人・世帯特性を有しているか、つまり、どのような個人・世帯特性の住民がいかなる活動参加や付き合いのパターン(住民類型)を示すであろうか。

第三、各住民類型は、住民の生活満足度といかに関連しているであろうか。

かかる課題を解明するために、本稿での展開は次のようである。まず、課題に係わる従来の知見を整理し、理論的仮説を提示する(第2節)。次に、「類型」の方法論的性格と分析用具としての有用性を明らかにし、本稿で採用する、「住民類型」構成のための手法を提示する(第3節)。それから、調査地(東京都多摩ニュータウン)と調査対象(集合住宅に居住する既婚主婦)の概要を叙述する(第4節)。更に、サンプルを次のような手続きで分析し、住民類型を構成する。林の数量化理論Ⅲ類によって各サンプルに付与されるスコアをクラスター分析する。析出したクラスター区分とクロス集計をすることにより、各クラスターの、活動参加や付き合い、個人・世帯特性、及び生活の満足度との関連を精細に吟味する。そして、このクロス集計によって明確化された、各クラスターの特性とクラスター間の差異に基づいて、それぞれのクラスターごとに住民類型を構成する(第5節)。最後に、分析結果を検討して浮かび上がった論点に考察を加える(第6節)。

2 理論的仮説の提示

後述するように、グリア(1956)は、住民の活動参加と付き合いの様態及び彼らにとっての近隣付き合いの意義における相違に依り、住民類型——より精確に述べ

ば地区類型——を提出した⁵⁾。他方、各研究者が解明しようとした課題は異なるものの、奥田道大(1971)や鈴木広(1978)は、住民が地域社会に対して懐抱する意識に基づいて住民類型を設定した⁶⁾。本稿では、筆者(高橋他, 1981)の前稿における知見に依拠しつつ、住民の活動参加と付き合いの実相を基準として、住民類型を構成する⁷⁾。

ここで、本稿で解明する3つの課題に係わる従来の知見を整理し、理論的仮説を提起する。

筆者(高橋他, 1981: 37-38)は、前稿において、活動参加と付き合いを分類する座標軸として、「地域活動と近隣付き合いに対する消極——積極対処」を検出した。これは、地域内におけるある活動参加ないし頻繁な近隣付き合いをしている住民は、地域内における他の活動にも参加している蓋然性が高いことを示す。換言すれば、地域活動及び近隣付き合いに積極的に関与している住民と、それらに消極的に関与している住民に峻別される。コミュニティ意識に基づく住民類型を設定する座標軸として、奥田(1971)は主体的行動体系——客体的行動体系を、鈴木(1978)は相互主義——利己主義(コミュニティ・モラル)を取り上げたが、筆者の知見は彼らの主張を首肯する。

しかし、筆者の前稿の調査では、職場と任意社会圏における活動参加や付き合いを問わなかったので、各類型の住民は、職場及び任意社会圏で活動参加や付き合いをいかに展開しているかを明示しえなかった。

さて、叙上のように、グリアは、住民の活動参加と付き合いの様態に基づき、都市の地区類型を設定した。彼はロサンゼルスの中から、社会・経済的地位と黒人率でほぼ等しいけれども都市化度——ここでは出生率、女性就業率、一戸建ての割合の3指標が採用されている——が異なる2地区を取り出した。この両地区の居住者を調査したところ、近隣付き合い、地区内に友人を持つこと、地区内の文化行事への参加、地区単位の団体への加入において顕著な相違があった。低都市化地区——出生率が高い、女性就業率が低い、一戸建て住宅の割合が高い——の住民は、地区内の社会参加をしている割合が高い。他方、高都市化地区——出生率が低い、女性就業率が高い、一戸建て住宅の割合が低い——の住民は、地区外の社会参加をしている割合が高い。両地区のこうした違いは、「地域社会のリーダーを知っているか」という質問においても現われる。低都市化地区の住民の方が、地区のリーダーをよく知っている。つまり、地域社会に関心を払っている。こうした発見もさる事ながら、この論文の卓越さは、居住に満足する理由の違いを調査で明瞭に呈示したことに求められる。両地区の住民は共に居住環境に満足していた。しかし、その理由が相違する。低都市化地区の住民は、まわりの人々が懇意に付きあ

てくれるのをその理由にあげた。一方、高都市化地区の住民は、下町に近く、そこへ行くのに便利であるという生活の利便性や周囲の人々が干渉しないことをあげた⁸⁾。

グラフが提示したこの地区類型を本稿で説明しようとする住民類型に援用すれば、次のような仮説を提起しうるであろう。すなわち、活動参加や付き合いを基準にして、住民を2種類に類型化しうる。それらは、「長屋型」住民と「ホテル型」住民である。前者は、居住地域における人間関係を大切にし、地域内の活動や近隣付き合いに積極的に関与しているけれども、職場や任意社会圏における活動や付き合いに余り関与していない。後者は、居住地域におけるプライバシーを尊重し、地域内の活動や近隣付き合いに大して関与していないが、職場や任意社会圏における活動や付き合いに積極的に関与している。

では、「長屋型」と「ホテル型」の住民類型をいかなる要因によって説明しうるのであろうか。

これに関する仮説を提起するに先立ち、若干の概念を導入し、定義しておこう。それは、自主加入型—受動加入型という集団と社会関係の類型である。例えば、サークルに加入したり、友人を作ることは、自らの能力・欲求・努力に基づいて、選択的・主体的に、参加し、形成するという性質が強い。その参加・形成は、その人が達成したものであるという意味で、当人の業績である。そこで、自主加入型という集団と社会関係の類型を提起する。他方、ある地域に居住していれば、大部分の住民は自治会に加入しており、学齢期の子供がいれば、P.T.A.に加入する。また、近隣・親族付き合いをしていない住民はほとんどいないであろう。人々は、居住地、子供の年齢、出生といった生得的な属性に基づいて、半ば無為自然に、自治会やP.T.A.に参加し、近隣・親族付き合いを形成する。そこで、自主加入型に対峙する受動加入型という集団と社会関係の類型を設定する。この2類型は、次の視点からも定義しうる。サークルに参加したり、友人を作ることは、無限定の範囲の中からの選択であるのに対し、自治会やP.T.A.への加入や近隣・親族付き合いは、ほとんど自動的であるか、選択の幅が少ない(鈴木, 1976:77-78,81)。

さて、鈴木(1976:81-82)が提示する、日本の都市の集団構造に関する所見を敷衍し、筆者は次のような仮説を提起したい。相対的に低学歴な、自営業者やブルーカラーは、伝統的な地域ぐるみの生活の共同性(=ムラの秩序)に基づく生活様式を遵守する。彼らは、相互に深い面識を持ち、受動加入型の地域活動や近隣付き合いに広く・積極的に関与し、相互扶助を頻繁に行なっている。これに対し、高学歴なホワイトカラーは、ムラの秩序に同調せず、地域活動や近隣付き合いに無関心であ

る。彼らは、職場や任意社会圏の自主加入型集団に選択的・自主的に参加したり、居住地域外の友人付き合いを選択的・主体的に結んでゆくことによって、多様に分化した欲求や生活関心を充足しようとする。約言すれば、土着型住民である自営業者やブルーカラーは、地域活動に参加し、緊密な近隣付き合いをする「長屋型」の生活様式で暮らしているが、ホワイトカラーは、職場や任意社会圏の集団や付き合いに関与する「ホテル型」の生活様式で暮らしていると予想される。

ときに、人々は、集団に参加し、社会関係を取り結ぶことによって、欲求を充足しうる。更に、自らを他の人々と引き比べることで幸福感を認識する。そこで、「長屋型」や「ホテル型」の生活様式に係わりなく、多くの活動や付き合いに関与している住民ほど、生活上の満足度は高いと想定される。フィリップス(Phillips, 1973)の知見は、それを支持すると思われる⁹⁾。

本節で提起した理論的仮説を概括すると、次のようになる。

〔仮説1〕 活動参加と付き合いを分類する座標軸として、「地域活動と近隣付き合いに対する消極—積極対処」がある。また、住民は、居住地域内の活動や近隣付き合いに積極的に関与している「長屋型」住民と、職場あるいは任意社会圏における活動や付き合いに意欲的に関与している「ホテル型」住民に峻別される。

〔仮説2〕 低学歴な、自営業者やブルーカラーは「長屋型」の生活様式で暮らしており、高学歴なホワイトカラーは「ホテル型」の生活様式で暮らしている。

〔仮説3〕 「長屋型」や「ホテル型」の生活様式に係わりなく、多くの活動や付き合いに関与している住民ほど、生活上の満足度は高い。

3 分析方法の提示

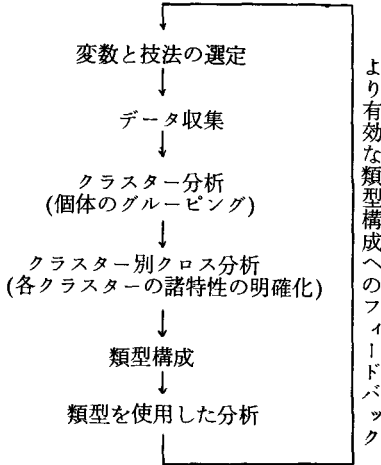
「類型」とは、経験的対象を分析するため、対象の諸特性の中から特定の特性に着目し、これらを組み合わせ、一面的・誇張的に極限化することによって設定した概念的構成体である。従って、経験的な対象は、「類型」と1対1で対応するわけではなく、それは、ある「類型」に近似しているとかいないとか、あるいは、ある側面では該当するが他の側面では該当しないなどと判定される。こうして構成された「類型」は、分析用具として、現実測定、記述と分類、因果索出、仮説検証などの機能を果たす(井関他, 1972:31-33, 新, 1976:62-64)。

従前、方法論的基礎づけの曖昧なままに、類型は直観的方法によって構成されてきた。これに対し、本稿では、井関ら(1972)が首唱する、「クラスター分析」を利用し、類型を設定する方法を採用する。この手続きによる類型設定は、誰が試みても同一結果を得ることができる

という意味で標準化されており、科学的である。

クラスター分析による類型設定は図1のような手続きを踏むが、その主眼は次の点である。クラスター分析で

図1 クラスター分析による類型構成法



注) 井関他 (1972:34) より引用

検出したクラスター区分を1変数と見做し、他の変数とのクロス集計を実施することによって、各クラスターの平均的ないし最頻の諸特性と、クラスター間の差異を明確にする。これらに基づき、それぞれのクラスターごとに類型を構成する。しかし、クラスターの諸特性と類型とは区別されなければならない。なぜならば、クラスターの諸特性は経験的対象の分析結果であるが、類型は、前述のように、経験的対象を分析するための概念的構成体であるから。そこで、重要度の高い特性を強調し、重要度の低い特性を捨象し、相互に関連が強いと解釈される諸特性を概括するといった処理をクラスターの諸特性

に加えて、類型を構成する (井関他, 1972:34)。

ただし、本稿では、活動参加と付き合いに関する原データをそのままクラスター分析するのではなく、原データを林の数量化理論第Ⅲ類の手法で分析し、各サンプルに付与されるスコアをクラスター分析する。そこで、類型構成のための具体的なデータ処理手順は次のようになる。

〔第1ステップ〕 活動参加と付き合いの項目を林の数量化理論第Ⅲ類の手法を用いて分析し、活動参加と付き合いを分類する座標軸を構成する。

〔第2ステップ〕 林の数量化理論第Ⅲ類による分析によって、それぞれの軸ごとに各サンプルに付与されるスコアをデータとして、クラスター分析を行なう。この結果、数個のクラスターが形成され、各クラスターは、相互に近似した「活動参加と付き合いのプロフィール」を持ったサンプルの集合となる。

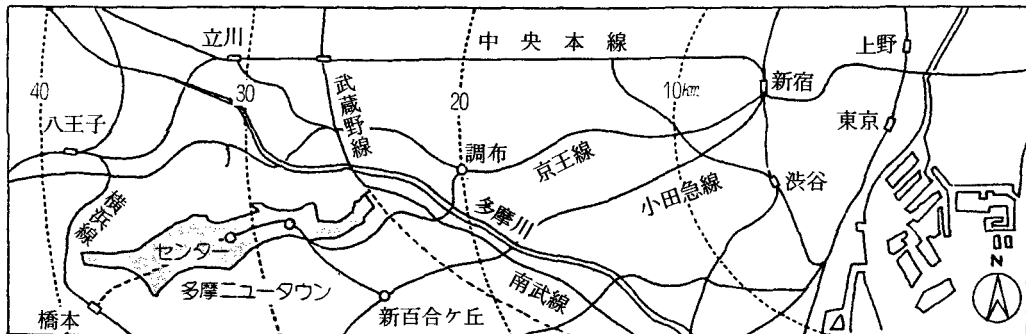
〔第3ステップ〕 サンプルのクラスター区分と、活動参加と付き合いの項目及び個人・世帯特性とのクロス集計を行なう。集計結果を分析して、各クラスターの活動参加と付き合いにおける特徴、各クラスターの個人・世帯特性、及びクラスター間の差異を明瞭にする。

〔第4ステップ〕 各クラスターの統計的諸特性の検討を通して、クラスターごとに「住民類型」を設定する。

4 調査対象の設定

東京都多摩ニュータウンは、都心から西南に約30キロメートルの多摩丘陵 (標高約150メートル) 一帯に位置し、東西14キロメートル、南北2-4キロメートルの細長い形をしており、総面積は約3,020ヘクタールである。その地域は、多摩市、八王子市、町田市、及び稲城市の4市にまたがる (図2)。昭和40年から、東京都住宅局、日本住宅公団 (現、住宅・都市整備公団)、及び東京都住宅供給公社が事業に着手し、昭和46年3月から住民を入居させることに乗り出した。昭和56年12月現在、住宅

図2 多摩ニュータウンの位置図



注) 南多摩新都市開発本部 (1982:12) より引用

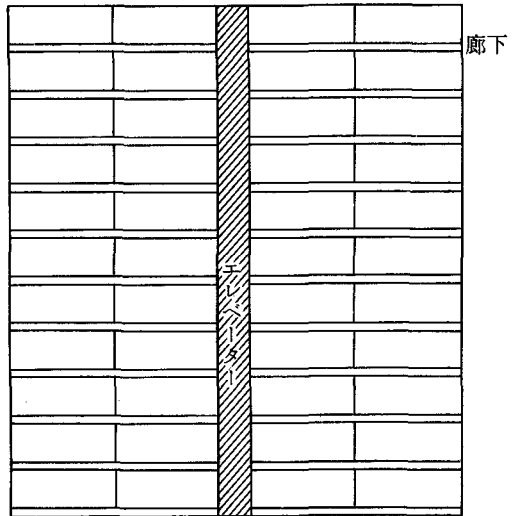
戸数87,800戸、人口313,000人である¹⁰⁾。

調査地を多摩ニュータウンのN住区¹¹⁾にある。賃貸中層住宅3棟と賃貸高層住宅2棟の2地区とし、1981年9月に調査を実施した。

賃貸中層住宅（各戸2DK）の各階は8戸から成り、各棟は5階から出来ている。各階の隣接する2戸が階段を共有する形式で、各棟に4つの階段が設置されている（図3-1）。それゆえ、同一階の戸であっても、階段を共有しない戸へは、一旦階下へ降りて、別の階段を昇って行く。一方、賃貸高層住宅（各戸2DK）の各階は4戸から成り、廊下で同一階の各戸に往来できる。そして、各棟は11階で出来ており、エレベーターが1基設置されている（図3-2）。

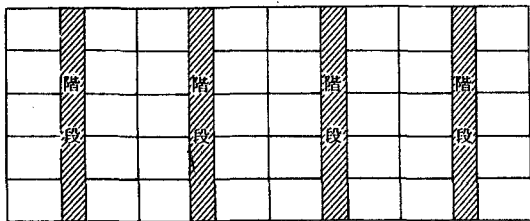
調査対象者をそれらの集合住宅に居住する既婚主婦とし、悉皆調査を行なった。集合住宅の居住面積が狭隘で

図3-2 賃貸高層住宅



注) 各階4戸、11階より成る。

図3-1 賃貸中層住宅



注) 各階8戸、5階より成る。

あるので、2名以上の既婚主婦が同居する事例はない。面接によって調査を実施したが、この回収状況を表1に示す。また、有効サンプル147の年齢構成、現職、学歴、入居年、夫の職業、及び世帯収入（年収）を、表2～10に各地区別に示す。これらの表より、中層住宅のサンプルと高層住宅のそれとの間に、属性における顕著な差異はないことを看取しうる。

表1 回収状況

| 地区 | 総戸数 | 非該当 | 調査対象世帯数 (A) | 調査不能世帯数 | | | サンプル数 (B) | 回収率 (B)/(A) |
|------|-----|-----|-------------|---------|----|----|-----------|-------------|
| | | | | 拒否 | 不在 | 病気 | | |
| 中層住宅 | 120 | 11 | 109 | 15 | 11 | 1 | 82 | 75% |
| 高層住宅 | 88 | 6 | 82 | 7 | 10 | 0 | 65 | 79% |

注) 非該当には、空家と夫婦欠損を含む。

表2 年齢構成

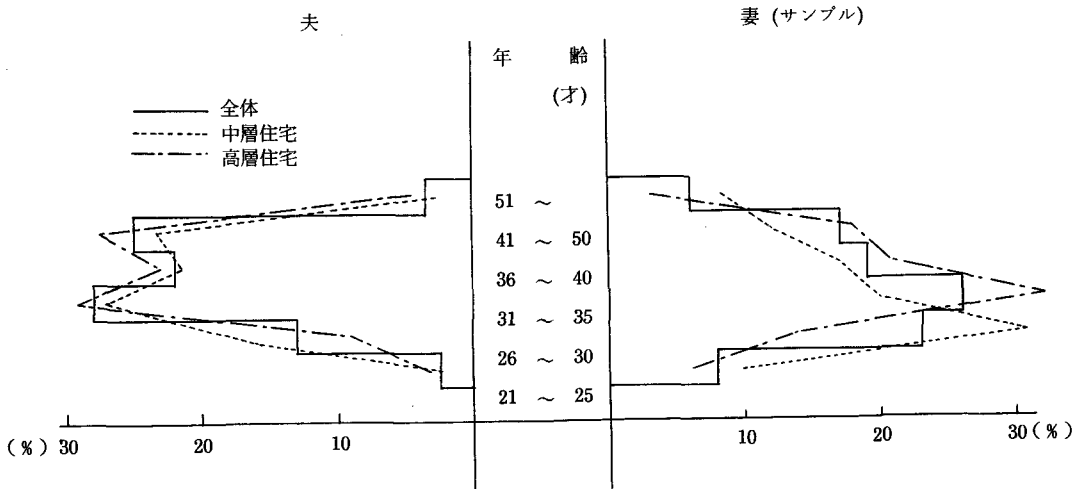


表3 主婦の年齢構成

| 年齢 | 地区 | 中層住宅(%) | 高層住宅(%) | 全 体 (%) |
|--------------|----|----------|----------|----------|
| 21 ~ 25 | | 8(9.8) | 4(6.2) | 12(8.2) |
| 26 ~ 30 | | 25(30.5) | 9(13.8) | 34(23.1) |
| 31 ~ 35 | | 17(20.7) | 21(32.3) | 38(25.9) |
| 36 ~ 40 | | 14(17.1) | 14(21.5) | 28(19.0) |
| 41 ~ 50 | | 10(12.2) | 15(23.1) | 25(17.0) |
| 51 ~ | | 7(8.5) | 2(3.1) | 9(6.1) |
| D. K., N. A. | | 1(1.2) | 0(0) | 1(0.7) |
| 合 計 | | 82(100) | 65(100) | 147(100) |

表5 主婦の従業上の地位

| 従業上の地位 | 地区 | 中層住宅(%) | 高層住宅(%) | 全 体 (%) |
|---------------|----|----------|----------|----------|
| 被 備 者 | | 19(23.2) | 9(13.8) | 28(19.0) |
| アルバイト・パートタイマー | | 7(8.5) | 15(23.1) | 22(15.0) |
| 家族従業員 | | 0(0) | 1(1.5) | 1(0.7) |
| 業主・役員 | | 3(3.7) | 1(1.5) | 4(2.7) |
| 無 職 | | 51(62.1) | 38(58.5) | 89(60.5) |
| D. K., N. A. | | 2(2.5) | 1(1.5) | 3(2.1) |
| 合 計 | | 82(100) | 65(100) | 147(100) |

表4 主婦の職業

| 職業 | 地区 | 中層住宅(%) | 高層住宅(%) | 全 体 (%) |
|---------------|----|----------|----------|----------|
| 商工・サービス業(自営) | | 2(2.4) | 2(3.1) | 4(2.7) |
| 専門・技術職(管理職) | | 0(0) | 1(1.5) | 1(0.7) |
| 専門・技術職(非管理職) | | 3(3.7) | 2(3.1) | 5(3.4) |
| 事務職(非管理職) | | 7(8.5) | 7(10.8) | 14(9.5) |
| 販売・サービス(管理職) | | 0(0) | 1(1.5) | 1(0.7) |
| 販売・サービス(非管理職) | | 8(9.8) | 6(9.2) | 14(9.5) |
| 運 輸 ・ 通 信 職 | | 1(1.2) | 0(0) | 1(0.7) |
| 製造工程・現場作業 | | 7(8.5) | 2(3.1) | 9(6.1) |
| 自 由 業 | | 1(1.2) | 2(3.1) | 3(2.0) |
| 無 職 | | 51(62.2) | 38(58.5) | 89(60.5) |
| 内 職 | | 1(1.2) | 4(6.2) | 5(3.4) |
| D. K., N. A. | | 1(1.2) | 0(0) | 1(0.7) |
| 合 計 | | 82(100) | 65(100) | 147(100) |

表6 主婦の学歴

| 学歴 | 地区 | 中層住宅(%) | 高層住宅(%) | 全 体 (%) |
|--------------|----|----------|----------|----------|
| 新 制 中 学 校 | | 8(9.8) | 3(4.6) | 11(7.5) |
| 新 制 高 校 | | 49(59.8) | 45(69.2) | 94(63.9) |
| 旧制中学校・女学校 | | 4(4.9) | 1(1.5) | 5(3.4) |
| 新 制 短 大 | | 8(9.8) | 4(6.2) | 12(8.2) |
| 新制高等専門学校 | | 0(0) | 2(3.1) | 2(1.4) |
| 旧 制 専 門 学 校 | | 2(2.4) | 2(3.1) | 4(2.7) |
| 旧 制 大 学 | | 1(1.2) | 1(1.5) | 2(1.0) |
| 新 制 大 学 | | 9(11.0) | 7(10.7) | 16(10.9) |
| D. K., N. A. | | 1(1.2) | 0(0) | 1(0.7) |
| 合 計 | | 82(100) | 65(100) | 147(100) |

注) 中退は卒業に含める

表7 入居年

| 入居年 | 地区 | 中層住宅% | 高層住宅% | 全 体 (%) |
|-----|----|----------|----------|----------|
| 46 | | 24(29.3) | 19(29.2) | 43(29.3) |
| 47 | | 3(3.7) | 7(10.8) | 10(6.8) |
| 48 | | 2(2.4) | 5(7.7) | 7(4.8) |
| 49 | | 2(2.4) | 1(1.5) | 3(2.0) |
| 50 | | 1(1.2) | 0(0) | 1(0.7) |
| 51 | | 6(7.3) | 6(9.2) | 12(8.2) |
| 52 | | 9(11.0) | 1(1.5) | 10(6.8) |
| 53 | | 9(11.0) | 5(7.7) | 14(9.5) |
| 54 | | 6(7.3) | 7(10.8) | 13(8.3) |
| 55 | | 12(14.6) | 9(13.8) | 21(14.3) |
| 56 | | 8(9.8) | 5(7.7) | 13(8.8) |
| 合 計 | | 82(100) | 65(100) | 147(100) |

表8 夫の職業

| 職業 | 地区 | 中層住宅 (%) | 高層住宅 (%) | 全 体 (%) |
|---------------|----|--------------|--------------|--------------|
| 商工・サービス業(自営) | | 3 (3.7) | 7 (10.8) | 10 (6.8) |
| 会社・団体役員 | | 1 (1.2) | 2 (3.1) | 3 (2.0) |
| 専門・技術職(管理職) | | 1 (1.2) | 3 (4.6) | 4 (2.7) |
| 専門・技術職(非管理職) | | 13 (15.9) | 6 (9.2) | 19 (12.9) |
| 事務職(管理職) | | 2 (2.4) | 3 (4.6) | 5 (3.4) |
| 事務職(非管理職) | | 16 (19.5) | 11 (16.9) | 27 (18.4) |
| 販売・サービス(管理職) | | 1 (1.2) | 2 (3.1) | 3 (2.0) |
| 販売・サービス(非管理職) | | 15 (18.3) | 13 (20.0) | 28 (19.0) |
| 運輸・通信職 | | 6 (7.3) | 3 (4.6) | 9 (6.1) |
| 製造工程・現場作業 | | 14 (17.1) | 10 (15.4) | 24 (16.3) |
| 保安・警察・消防・自衛隊 | | 2 (2.4) | 0 (0) | 2 (1.4) |
| 自 由 業 | | 1 (1.2) | 3 (4.6) | 4 (2.7) |
| D. K. , N. A. | | 7 (8.5) | 2 (3.1) | 9 (6.1) |
| 合 計 | | 82 (100) | 65 (100) | 147 (100) |

表9 夫の従業上の地位

| 従業上の地位 | 地区 | 中層住宅% | 高層住宅% | 全 体 (%) |
|------------|----|----------|----------|-----------|
| 被 傭 者 | | 70(85.4) | 53(81.5) | 123(83.7) |
| 業主・役員 | | 5(6.1) | 10(15.4) | 15(10.2) |
| D.K., N.A. | | 7(8.5) | 2(3.1) | 9(6.1) |
| 合 計 | | 82(100) | 65(100) | 147(100) |

表10 世帯収入(年収)

| 世帯収入 | 地区 | 中層住宅 (%) | 高層住宅 (%) | 全 体 (%) |
|-----------------|----|--------------|--------------|--------------|
| 300万円未満 | | 19 (23.3) | 8 (12.3) | 27 (18.4) |
| 300万円以上 400万円未満 | | 28 (34.1) | 32 (49.2) | 60 (40.8) |
| 400万円以上 500万円未満 | | 17 (20.7) | 13 (20.0) | 30 (20.4) |
| 500万円以上 | | 10 (12.2) | 11 (16.9) | 21 (14.4) |
| D. K. , N. A. | | 8 (9.8) | 1 (1.5) | 9 (6.1) |
| 合 計 | | 82 (100) | 65 (100) | 147 (100) |

注) 税込みの年収

5 調査結果の提示

(1) 調査項目について

調査を実施するに先立ち、地区のリーダーに面接し、集合住宅居住者の地域における生活、とりわけ、地域活動参加や近隣付き合いの現況を聴取した。これに基づき、居住者にかなり普遍的に見出される活動参加と付き合いの項目を選択した。活動として、N住区賃貸地区内における趣味やスポーツのサークル、本人ないし夫の職場のサークル、これ以外の地区外のサークル、団地自治会、生活協同組合、ボランティア活動、宗教活動、おけいこ事、団地のお祭、団地の運動会、家賃値上げ反対運動、尾根幹線住民運動への参加・非参加を調査した。中層住宅3棟と高層住宅2棟は、それぞれ地理的に隣接し、一つのまとまりのある地区を形成しているから、中層住宅3棟の間で、及び高層住宅2棟の間で結びあれるネッ

ネットワークを近隣付き合いと見做す。そして、近隣付き合いのネットワークを調べるため、各地区内のサンプルを悉皆調査した。近隣付き合いは、サンプルが地区内で付き合いしていると回答した人数(家の数)である。これについて、親密度において異なる3通りの問い方をし、それぞれ弱紐帯、中紐帯、強紐帯と命名する¹²⁾。更に、付き合いとして、歩いて行ける範囲内に住む、普段から行き来しあっている友人の人数(近隣付き合いを除外した家の数)、交通機関を利用し1時間以内で行ける範囲に住む同様の友人の人数(家の数)、及び親族で普段から親しく付き合いしている人数(家の数)を調査した。

調査項目の活動のうち、N住区の自治会、ボランティア活動、尾根幹線住民運動を説明しておこう。

N住区の自治会は、(a)灯油やフロガマの共同購入、(b)住環境改善の活動、及び行政等に住環境整備を要望する運動の組織化、(c)サークル育成、団地のお祭や運動会といった文化行事、(d)家賃値上げ反対運動の組織化といった活動を行なっている。(「N公団住宅自治会昭和55年度活動報告」,「N公団住宅自治会報」1981年7月号)。これらの活動は、団地の自治会が一般的に実施している活動であり、当該団地に特別に見出されるものではない(座談会、1975;全国公団住宅自治会協議会企画広報部、1981)。

N住区の中に幾人かの身障者の子供がおり、彼らは、家に閉じ籠もりがちで、同年齢の健康な子供達と共に時を過ごす機会に乏しい。そこで、他の子供達の家を訪問して遊んだり、遠足に行ったりする活動を行なうボランティア活動が、N住区内に組織されている。

さて、尾根幹線住民運動の経緯は次のようである。朝夕の通勤のため、この地域の交通渋滞が著しい。そこで、当局は、都心と多摩ニュータウンを結ぶ幹線道路(尾根幹線)の建設を計画した。しかし、この道路の開通により、騒音・排気ガスといった種々の不都合も生起する。自治会はこれに配意し、尾根幹線建設反対運動を組織した。一方、その道路の利便性に注目する他の住民は、建設促進を提唱している。そこで、建設促進に賛同する住民は、自治会を脱会した。

(2) 林の数量化理論第Ⅲ類

調査項目を林の数量化理論第Ⅲ類で分析するために、次の処理を行なう。まず、活動参加の調査項目の回答を参加・非参加の2つに分類する。「活動が行なわれたのを知らなかった」、「活動が行なわれたとき、居住していなかった」、「判らない」、「答えたくない」という回答をしたサンプルを除外した上で、分析することが望ましいけれども、サンプル数が極端に減少する。次善の策として、それらの回答を活動非参加に分類し、分析を行なう。それから、サンプルがほぼ半数ずつになるように、近隣・

友人・親族付き合いをしている人数の分割点を設定し、付き合いの調査項目の回答を付き合いが多いと少ないの2つに分類する。調査で採用した項目、その回答の分類、地区別の各分類のサンプル数は表11~12のようである。

回答を分類し直した活動参加と近隣・親族・友人付き合いに関する項目(表11)を林の数量化理論第Ⅲ類で分析し、求めた根を座標にプロットしたものが図4である。差し当り、第3根までを図に示す。図4-1は第1根と第2根を、図4-2は第1根と第3根を組み合わせ、座標にプロットしたものである。

図4-1 活動参加と近隣・友人・親族付き合い
(第1根と第2根)

[P.143 を見よ]

図4-2 活動参加と近隣・友人・親族付き合い
(第1根と第3根)

[P.144 を見よ]

表11 調査項目と回答の分類

1. 活動参加

| 調査項目 | 回答の分類 | 回答のための選択枝 |
|-----------|--------|---|
| 地区内サークル | 参加(p) | あまり活動していない/人並には活動している/積極的に活動している |
| | 非参加(c) | 加入するつもりはない/加入していたが脱会した/加入してもよい |
| 職場サークル | 参加(p) | あまり活動していない/人並には活動している/積極的に活動している |
| | 非参加(c) | 加入するつもりはない/加入していたが脱会した/加入してもよい |
| 地区外サークル | 参加(p) | あまり活動していない/人並には活動している/積極的に活動している |
| | 非参加(c) | 加入するつもりはない/加入していたが脱会した/加入してもよい |
| 自治会 | 参加(p) | あまり活動していない/人並には活動している/積極的に活動している |
| | 非参加(c) | 加入するつもりはない/加入していたが脱会した/加入してもよい |
| 生協 | 参加(p) | あまり活動していない/人並には活動している/積極的に活動している |
| | 非参加(c) | 加入するつもりはない/加入していたが脱会した/加入してもよい |
| ボランティア活動 | 参加(p) | あまり活動していない/人並には活動している/積極的に活動している |
| | 非参加(c) | 加入するつもりはない/加入していたが脱会した/加入してもよい |
| 宗教活動 | 参加(p) | あまり活動していない/人並には活動している/積極的に活動している |
| | 非参加(c) | 加入するつもりはない/加入していたが脱会した/加入してもよい |
| おけいこ事 | 参加(p) | あまり活動していない/人並には活動している/積極的に活動している |
| | 非参加(c) | 加入するつもりはない/加入していたが脱会した/加入してもよい |
| 団地のお祭 | 参加(p) | 催しを準備, 実行する側として参加した/見に行った |
| | 非参加(c) | 行きたかったが, 都合で行けなかった/行かなかった |
| 団地の運動会 | 参加(p) | 催しを準備, 実行する側として参加した/見に行った |
| | 非参加(c) | 行きたかったが, 都合で行けなかった/行かなかった |
| 家賃値上げ反対運動 | 参加(p) | 署名をした/討論会, 学習会等に参加した/カンパに応じた/裁判や審議の傍聴に行った/公団等への陳情・交渉に行った/かなり積極的な行動をした |
| | 非参加(c) | 今のところ特にしていない |
| 尾根幹線住民運動 | 参加(p) | 署名をした/討論会, 学習会等に参加した/カンパに応じた/裁判や審議の傍聴に行った/公団等への陳情・交渉に行った/かなり積極的な行動をした |
| | 非参加(c) | 今のところ特にしていない |

2. 近隣・友人・親族付き合い

| 調査項目 | 回答の分類 | 人数 | |
|--------|-------|-------|--|
| 弱紐帯 | 多 | 13人以上 | 弱紐帯 各調査地区内において, 会えば挨拶する程度の人。 中紐帯, 強紐帯も含む。 |
| | 少 | 0~12人 | |
| 中紐帯 | 多 | 6人以上 | 中紐帯 各調査地区内において, 会えば世間話をする程度の人。 強紐帯も含む。 |
| | 少 | 0~5人 | |
| 強紐帯 | 多 | 2人以上 | 強紐帯 各調査地区内において, 普段から気軽に行き来しあっている程度の人。 |
| | 少 | 0, 1人 | |
| 地域内友人 | 多 | 2人以上 | |
| | 少 | 0, 1人 | |
| 地域外友人 | 多 | 2人以上 | |
| | 少 | 0, 1人 | |
| 親族付き合い | 多 | 5人以上 | |
| | 少 | 0~4人 | |

表12 地区別の各分類のサンプル数

| 調査項目 | 回答の分類 | サンプル数 | | |
|-----------|--------|-------|------|-----|
| | | 中層住宅 | 高層住宅 | 全体 |
| 地区内サークル | 参加(p) | 9 | 6 | 15 |
| | 非参加(c) | 73 | 59 | 132 |
| 職場サークル | 参加(p) | 11 | 7 | 18 |
| | 非参加(c) | 71 | 58 | 129 |
| 地区外サークル | 参加(p) | 16 | 11 | 27 |
| | 非参加(c) | 66 | 54 | 120 |
| 自治会 | 参加(p) | 43 | 28 | 71 |
| | 非参加(c) | 39 | 37 | 76 |
| 生協 | 参加(p) | 26 | 26 | 52 |
| | 非参加(c) | 56 | 39 | 95 |
| ボランティア活動 | 参加(p) | 3 | 4 | 7 |
| | 非参加(c) | 79 | 61 | 140 |
| 宗教活動 | 参加(p) | 5 | 6 | 11 |
| | 非参加(c) | 77 | 59 | 136 |
| おけいこ事 | 参加(p) | 12 | 7 | 19 |
| | 非参加(c) | 70 | 58 | 128 |
| 団地のお祭 | 参加(p) | 42 | 26 | 68 |
| | 非参加(c) | 40 | 39 | 79 |
| 団地の運動会 | 参加(p) | 12 | 8 | 20 |
| | 非参加(c) | 70 | 57 | 127 |
| 家賃値上げ反対運動 | 参加(p) | 68 | 46 | 114 |
| | 非参加(c) | 14 | 19 | 33 |
| 尾根幹線住民運動 | 参加(p) | 42 | 32 | 74 |
| | 非参加(c) | 40 | 33 | 73 |
| 弱紐帯 | 多 | 36 | 34 | 70 |
| | 少 | 46 | 31 | 77 |
| 中紐帯 | 多 | 34 | 32 | 66 |
| | 少 | 48 | 33 | 81 |
| 強紐帯 | 多 | 36 | 33 | 69 |
| | 少 | 46 | 32 | 78 |
| 地域内友人 | 多 | 48 | 40 | 88 |
| | 少 | 34 | 25 | 59 |
| 地域外友人 | 多 | 54 | 37 | 91 |
| | 少 | 28 | 28 | 56 |
| 親族付き合い | 多 | 49 | 28 | 77 |
| | 少 | 33 | 37 | 70 |

さて、林の数量化理論Ⅲ類により現出した根は、次の意味を持つ。根を座標にプロットしたとき、それら相互の距離が接近していることは、属性（ここでは、活動への参加・非参加、近隣・友人・親族付き合いの多寡）に対する人々の反応パターンが類似していることを表示する。そこで、全体における根の連関の布置を精察することにより、因子を推察できる。また、座標の原点の近傍にプロットされた属性に反応することは、一般的に言って、他の属性にランダムな反応をすることを示す。そこで、原点の近傍にプロットされた属性から、その反応の独自性を剔出できない（安田他，1977:115-125）。

析出した根の座標上における配置を観察することにより、因子を推察する作業に着手しよう。

第1因子、つまり表4における第1軸は、「地域内活動参加と近隣付き合いに対する消極-積極対処」の軸と解釈できる。ある地域内活動に参加していたりあるいは頻繁な近隣付き合いをしている住民は、他の地域内活動に参加している蓋然性が高い。換言すれば、地域内活動及び近隣付き合いに積極的に関与している住民と、それらに消極的に関与している住民に峻別される。いわば、地域活動参加や近隣付き合い形成意欲を想定しうる。また、この軸は、「地域内活動（近隣付き合い）— 地域外活動参加」の軸とも解釈できる。地域内活動に参加しておらず、近隣付き合いを余りしていない住民は、地域外活動（例えば、地区外サークル、職場サークルなど）に参加している可能性がある。つまり、第1軸は、地域内活動や近隣付き合いに積極的に関与している住民と、地域外活動に積極的に関与している住民を弁別している。

これら2つの軸が組み合わさって、第1軸を構成している。

第2軸は、各種サークル活動やおけいこ事を近隣付き合いから区別している。前者は、住民が選択的・主体的に参加・展開してゆく自主加入型の活動であるが、後者は、選択的余地の少ない、生得的な属性に基づきほとんど自動的に住民が取り結ぶ受動加入型の社会関係である。つまり、近隣付き合いのような受動加入型の社会関係につかっている住民と、それから離反し、選択的・自発的に活動に参加している住民がいる。従って、第2軸は、「自主加入型— 受動加入型関与」の軸と解釈しうる。

第3軸はいかなる因子を表示するかを明確に解釈しえない。

(3) クラスタ分析¹³⁾

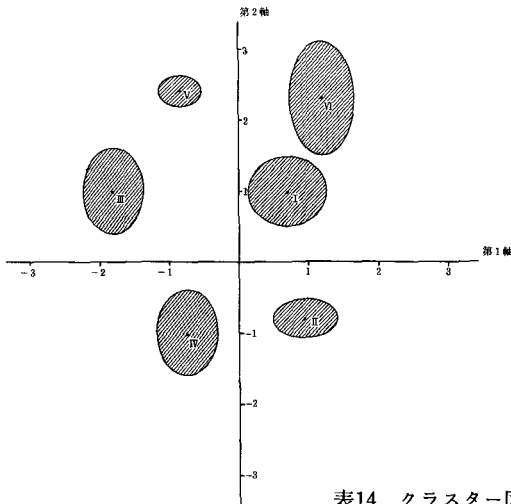
林の数量化理論Ⅲ類の手法によって、それぞれの軸ごとに各サンプルに付与されたスコアをデータとし、クラスタ分析を行なう。因子を解釈しえたのは第1軸と第2軸であるから、この2軸のサンプルスコアをデータとする。このユークリッド距離を群平均法によりクラスタ化する手法を採用する。そして、デンドログラム（樹状図）や結合指標値を吟味し、距離2.0近辺で結合を停止させ、6つのクラスタを設定するのが妥当であると判定した。

検出した6つのクラスタをクラスタⅠ～クラスタⅥと仮称する。表13は各クラスタごとのサンプルスコアの平均と分散であり、図5はクラスタの平均と標準偏差を座標上にプロットしたものである。

表13 クラスタごとのサンプルスコアの平均と分散

| クラスタ区分 | サンプル数 | 軸 | 平均 | 分散 |
|--------|-------|-----|----------|---------|
| クラスタⅠ | 42 | 第1軸 | 0.69266 | 0.32151 |
| | | 第2軸 | 0.47377 | 0.23646 |
| クラスタⅡ | 29 | 第1軸 | 0.94702 | 0.22395 |
| | | 第2軸 | -0.80872 | 0.09231 |
| クラスタⅢ | 10 | 第1軸 | -1.7866 | 0.14977 |
| | | 第2軸 | 1.0155 | 0.44907 |
| クラスタⅣ | 56 | 第1軸 | -0.73034 | 0.20529 |
| | | 第2軸 | -0.53820 | 0.33078 |
| クラスタⅤ | 3 | 第1軸 | -0.85395 | 0.08534 |
| | | 第2軸 | 2.4052 | 0.06057 |
| クラスタⅥ | 7 | 第1軸 | 0.68163 | 0.22483 |
| | | 第2軸 | 2.3319 | 0.33614 |

図5 クラスタごとにサンプルスコアの平均と標準偏差



(4) クロス集計

まず、サンプルのクラスター区分と、林の数量化理論第Ⅲ類に使用した活動参加・付き合いの調査項目(表11)とのクロス集計を行ない、各クラスターの活動参加と付き合いにおける特徴を明らかにする。分割表のカイ自乗検定¹⁴⁾によれば、クラスター区分は、宗教活動、地域外友人、及び親族付き合いと関連がないが、これら以外の活動参加・付き合い項目と関連がある¹⁵⁾ 更に、特定のクラスターのみ注目し、関連性の内容を吟味するために、比率の差の検定を行なう¹⁶⁾。やはり、いずれのクラスターも宗教活動と地域外友人と関連していなかった。どのクラスターが、それら以外の活動参加・付き合い項目と関連しているかを判定した結果を表14に整理する。この表の検討により、各クラスターの活動参加と付き合いにおける特徴が明白となる。

表14 クラスタ区分と調査項目との関連

| クラスター区分 調査項目 | クラスターⅠ | クラスターⅡ | クラスターⅢ | クラスターⅣ | クラスターⅤ | クラスターⅥ |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 地区内サークル | N.S. | ○ 非参加 | ○ 参加 | ○ 非参加 | ○ 参加 | N.S. |
| 職場サークル | N.S. | ○ 非参加 | N.S. | ○ 非参加 | N.S. | ○ 参加 |
| 地区外サークル | ○ 参加 | N.S. | N.S. | ○ 非参加 | N.S. | ○ 参加 |
| 自治会 | ○ 参加 | ○ 非参加 | ○ 参加 | N.S. | N.S. | N.S. |
| 生協 | ○ 非参加 | ○ 非参加 | ○ 参加 | N.S. | N.S. | ○ 非参加 |
| ボランティア活動 | ○ 非参加 | ○ 非参加 | ○ 参加 | N.S. | N.S. | N.S. |
| 宗教活動 | N.S. | N.S. | N.S. | N.S. | N.S. | N.S. |
| おけいこ事 | ○ 参加 | ○ 非参加 | N.S. | ○ 非参加 | ○ 参加 | ○ 参加 |
| 団地のお祭 | ○ 非参加 | ○ 非参加 | ○ 参加 | ○ 参加 | N.S. | N.S. |
| 団地の運動会 | ○ 非参加 | ○ 非参加 | ○ 参加 | ○ 参加 | N.S. | N.S. |
| 家賃値上げ反対運動 | N.S. | ○ 非参加 | ○ 参加 | ○ 参加 | N.S. | N.S. |
| 尾根幹線住民運動 | N.S. | ○ 非参加 | ○ 参加 | ○ 参加 | N.S. | N.S. |
| 弱紐帯 | ○ 少 | ○ 少 | ○ 多 | ○ 多 | N.S. | ○ 少 |
| 中紐帯 | ○ 少 | ○ 少 | ○ 多 | ○ 多 | N.S. | N.S. |
| 強紐帯 | ○ 少 | ○ 少 | ○ 多 | ○ 多 | N.S. | ○ 少 |
| 地域内友人 | ○ 少 | ○ 少 | ○ 多 | ○ 多 | N.S. | ○ 少 |
| 地域外友人 | N.S. | N.S. | N.S. | N.S. | N.S. | N.S. |
| 親族付き合い | N.S. | ○ 少 | ○ 多 | N.S. | N.S. | N.S. |

注) ○ 両者の間に関連がある
N.S. 調査項目とクラスターの間に関連がない

表15 個人・世帯特性の分類

| 個人・世帯特性 | | 分 類 | 具 体 例 |
|-------------------------|--------------------|---------------|--|
| 個人 特 性 | 主婦の学歴 | 低 | 新制中学校／新制高校 |
| | | 中 | 旧制中学校、女学校／新制短大／新制高等専門学校 |
| | | 高 | 旧制専門学校／旧制大学／新制大学 |
| | 主婦の職業の有無 | 無 | |
| | | 有 | |
| | 主婦の就業上の地位 | 無 職 | |
| | | アルバイト・パートタイマー | |
| | | 常 勤 | 常雇／家族従業員／業主、役員 |
| | 主婦の就業拘束時間 | 0 時 間 | |
| | | 4 時 間 未 満 | |
| | | 4 時間以上8 時間未満 | |
| | | 8 時 間 以 上 | |
| | 主婦の生活目標 | 仕 事 | |
| | | 子 供 の 養 育 | |
| | | 養 育 以 外 の 家 事 | |
| | | 夫 婦 の 対 話 | |
| | | 趣味、スポーツ、教養的活動 | |
| | | 社 会 奉 仕 活 動 | |
| | ライフ・サイクル | そ の 他 | |
| 子 の な い 時 間 | | | |
| 長 子 幼 児 期 | | 長子小学校入学以前 | |
| 長 子 修 学 期 | | 長子小学生～高校生 | |
| 入 居 年 | 長 子 成 人 期 | 長子大学生か社会人 | |
| | 昭 和 46 年 ～ 51 年 | | |
| 世帯 特 性 | 昭 和 52 年 ～ | | |
| | 夫 の 職 業 (威 信) | 低 | 製造工程、現場作業／運輸、通信、保安、警察、消防／事務、販売、サービス（規模299人以下） |
| | | 中 | 専門、技術職（規模299人以下）／個人、零細企業々主（規模9人以下）／事務、販売、サービス（規模300人以上及び官公庁） |
| | | 高 | 自由業／専門、技術職（規模300人以上及び官公庁）／企業経営者（規模10人以上の業主、役員） |
| 世帯 収 入 (年 収) | 300万円未満 | | |
| | 300万円以上400万円未満 | | |
| | 400万円以上500万円未満 | | |
| | 500万円以上 | | |

クラスターⅠに分類されたサンプルは、地区外サークル、自治会、おけいこ事に参加しているが、生協、ボランティア活動、団地のお祭や運動会に参加していない。そして、近隣付き合い（弱紐帯、中紐帯、強紐帯）や地域内友人が少ない。

クラスターⅡは、地区内サークル、職場サークル、自治会、生協、ボランティア活動、おけいこ事、団地のお祭や運動会、家賃値上げ反対運動、尾根幹線住民運動に参加していない。更に、近隣付き合い、地域内友人、親族付き合いが少ない。

これに対し、クラスターⅢは、地区内サークル、自治会、生協、ボランティア活動、団地のお祭や運動会、家賃値上げ反対運動、尾根幹線住民運動に参加している。その上、近隣付き合い、地域内友人、親族付き合いが多い。

クラスターⅣは、団地のお祭や運動会、家賃値上げ反対運動、尾根幹線住民運動に参加しているが、地区内サークル、職場サークル、地区外サークル、おけいこ事に参加していない。そして、近隣付き合いや地域内友人が多い。

クラスターⅤのサンプルの度数が些小で、この特徴を截然と描出することはできない。このクラスターは、地区内サークルとおけいこ事に参加しているにすぎない。クロス集計表を検討すると、自治会、尾根幹線住民運動に参加しているという特徴を敢えて指摘することもできない。

クラスターⅥもやはり度数が少なく、その特徴を明瞭に描出することはできない。このクラスターは、職場サークル、地区外サークル、おけいこ事に参加しているが、生協に加入していない。そして、弱紐帯、強紐帯、

地域内友人が少ない。

次に、個人・世帯特性とサンプルのクラスター区分とのクロス集計を実施し、各クラスターの個人・世帯特性を明確化する。サンプルである既婚主婦の個人特性として、本人の学歴、職業の有無、従業上の地位、通勤時間をも含めた就業拘束時間、生活目標、ライフ・サイクル¹⁷⁾を、世帯特性として、入居年、夫の職業（威信）¹⁸⁾、世帯収入（年収）を調査した。

調査で用いる個人特性に若干説明を加えておこう。

就業拘束時間は、主婦が就業のために1日のうち、何時間、家を留守にしているかを示しており、いわば、地域社会からの離脱度である。無論、この変数は、主婦の職業の有無や従業上の地位と深く関連している¹⁹⁾。

従来、長子の成長段階や末子の成長段階を基準にして、ライフ・サイクルは設定されてきた。子供の人数が著しく減少しつつあり、長子と末子の出生間隔が短縮している（岡村、1972:129）という日本社会の趨勢を考慮して、本稿では、長子の成長段階に基づきライフ・サイクルを構成する。さて、ライフ・サイクルを緻細に設定すると、サンプルが少ないために、各周期に割り当てられるサンプルが僅少になってしまう。そこで、やむをえず、「子のない時期」、「長子幼児期」、「長子修学期」、「長子成人期」の4つの周期を設定することにした。

では、個人・世帯特性を表15のように分類し、これとクラスター区分とのクロス集計を行ない、両者の関連をカイ自乗検定により検証しよう²⁰⁾。仮説に反し、夫の職業と世帯収入は、クラスター区分と関連がないけれども、これら以外の個人・世帯特性はクラスター区分と関連がある。関連性の検討結果を表16に概括する。

表16 クラスター区分と個人・世帯特性との関連

| クラスター区分 | | クラスターⅠ | クラスターⅡ | クラスターⅢ | クラスターⅣ | クラスターⅤ | クラスターⅥ |
|---------|-----------|--------|--------|--------|-----------|---------------|--------|
| 個人・世帯特性 | 主婦の学歴 | 中・高 | 中・高 | 低 | 低 | 低 | 中・高 |
| | 主婦の職業の有無 | 有 | 無 | 無 | 無 | 有 | 有 |
| | 主婦の従業上の地位 | 常勤 | | | | アルバイト・パートタイマー | 常勤 |
| | 主婦の就業拘束時間 | 8時間以上 | 0時間 | | 0時間 | | 8時間以上 |
| | 主婦の生活目標 | 仕事 | | 子供養育 | 子供養育 | | 仕事 |
| | ライフ・サイクル | 子のない時期 | | 長子修学期 | 長子幼児期・修学期 | 長子修学期 | 子のない時期 |
| 世帯特性 | 入居年 | 52年以降 | 52年以降 | 51年以前 | 51年以前 | | |
| | 夫の職業(威信) | | | | | | |
| | 世帯収入(年収) | | | | | | |

クラスターⅠに分類されるサンプルの学歴は、中学歴か高学歴である。常勤の就業者が多く、就業拘束時間は8時間以上で、仕事を生活目標としている。子供をまだ儲けておらず、昭和52年以降に入居している。

クラスターⅡの学歴は、中学歴か高学歴である。無職が多く、昭和52年以降に入居している。

これに対し、クラスターⅢの学歴は、低学歴である。無職が多く、子供の養育を生活目標としている。修学期にある長子を持ち、昭和51年以前に入居している。

クラスターⅣの学歴は、低学歴である。無職が多く、子供の養育を生活目標としている。長子は就学前幼児期か修学期にある。そして、昭和51年以前に入居している。

クラスターⅤの学歴は、低学歴である。アルバイトやパートタイマーとしての就業者が多い。長子は修学期にある。

クラスターⅥの学歴は、中学歴か高学歴である。常勤の就業者が多く、就業拘束時間は8時間以上であり、仕事を生活目標としている。子供をまだ儲けていない。

最後に、クラスター区分と生活満足度との関連を検討する。生活の満足度について、「満足している」、「まあ満足をしている」、「どちらとも言えない」、「やや不満である」、「不満である」の5段階の選択肢を用意し、回答を求めた。自らの生活に「満足している」あるいは「まあ満足している」と回答した人は75%を越える。そこで、回答の選択肢のうち、生活に「満足している」と「まあ満足している」を「満足」、「どちらとも言えない」、「やや不満である」及び「不満である」を「不満」と分類した。カイ自乗検定では、クラスター区分は生活の満足度と関連していないけれども、比率の差の検定を行なうと、クラスターⅠとクラスターⅢが「満足」と関連していることが判明する(表17)。

表17 クラスター区分と生活の満足度のクロス集計

| クラスター 区分 | 生活の 満足度 | | D.K., N.A. | 合 計 |
|-------------|------------|-----|---------------|-----|
| | 満 足 | 不 満 | | |
| クラスターⅠ | 36 | 6 | 0 | 42 |
| クラスターⅡ | 21 | 8 | 0 | 29 |
| クラスターⅢ | 9 | 1 | 0 | 10 |
| クラスターⅣ | 39 | 17 | 0 | 56 |
| クラスターⅤ | 2 | 1 | 0 | 3 |
| クラスターⅥ | 4 | 2 | 1 | 7 |
| 合 計 | 111 | 35 | 1 | 147 |

(N.S., $pr > 0.05$: 片側検定)

社会参加の様態が生活の満足度と関連するという仮説に基づき、上述の検定を行なった。他方、生活の満足度は、サンプルの個人・世帯特性によって直接規定されているという対抗仮説を立てることもできよう(例えば、「収入が多いから、生活の満足度が高い」というように)。この対抗仮説の当否を確認するために、個人・世帯特性と生活の満足度とのクロス集計を行ない、両者の関連を吟味したけれども、関連性を見出せなかった²¹⁾。

(5) 「住民類型」の構成

各クラスターの統計的諸特性を検討し、集合住宅居住者の住民類型を構成する。

林の数量化理論第Ⅲ類による分析で現出した軸は、地域内活動参加と近隣付き合いに対する消極—積極対処の軸であり、また、これは地域内活動(近隣付き合い)—地域外活動参加の軸でもあった。第2軸は、自主加入型—受動加入型関与の軸である。この視点から、各クラスターが活動と付き合いに総体として関与するパターンを素描し、併せて、統計的諸特性の検討を踏まえ、各クラスターの個人・世帯特性を特徴づける。そして、各クラスターごとに住民類型を設定する²²⁾。

クラスターⅠに分類されるサンプルは、居住期間が短く、中・高学歴である。まだ子供を儲けていないので、1日8時間以上拘束される常勤の職業を持つことができ、仕事を生活目標としている。地域より離脱している彼らは、地域内活動と近隣・友人付き合いに関与していない。代わりに、自主加入型の地域外活動に参加している。そこで、この住民類型を「広域型」と名付ける。

クラスターⅡのサンプルは、居住期間が短く、中・高学歴であり、無職である。彼らは、地域内・外の活動に参加していないのみならず、近隣・友人・親族付き合いも少ない。いわば、孤絶した住民といえる。従って、これを「孤立型」と名付ける。

クラスターⅢのサンプルは、居住期間が長く、低学歴で、長子修学期のライフ・サイクルにある。無職で、子供の養育を生活目標としている。地域に束縛されることが多い彼らは、地域内の自主加入型及び受動加入型活動に参加し、近隣付き合いを頻繁に行なう。これを「地区型」と名付ける。

クラスターⅣのサンプルは、居住期間が長く、低学歴で、長子幼児期か修学期のライフ・サイクルにある。無職で、子供の養育を生活目標とする。彼らは、地域に繫縛されているので、受動加入型の地域内活動に参加し、近隣付き合いを頻繁に行なう。しかし、地区型住民より子供の世話に時間を割かなければならないので、自主加入型の地域内活動に参加していない。だから、これを「近隣型」と名付ける。

クラスターⅤのサンプルは、低学歴で、長子修学期の

ライフ・サイクルにある。子供の養育が少し楽になり、アルバイトかパートタイマーとして職業を持っている。地区型住民よりも自主加入型の地域内活動に積極的に参加している。これを「地区自主活動型」と名付ける。

クラスターⅥのサンプルは、中・高学歴であり、まだ子供を儲けていないので、1日8時間以上拘束される常

勤の職業を持つことができ、仕事を生活目標としている。地域から離脱している彼らは、広域型よりも積極的に自主加入型の地域外活動に参加している。この住民類型を「広域自主活動型」と名付ける。

各クラスターの統計的諸特性と、これに基づいて構成した住民類型を表18に纏める。

表18 各クラスターの特性と住民類型

| クラスター区分 | 個人・世帯特性 | 活動参加と付き合いの特徴 | 構成された類型 |
|---------|---|---|--|
| クラスターⅠ | 中・高学歴 常勤の職業 仕事が生生活目標 子のない時期 昭和52年以降に入居 | 地区外サークル、自治会、おけいこ事に参加。生協、ボランティア活動、団地のお祭や運動会に非参加。近隣付き合い、地域内友人少ない。 | 「広域型」 ・中・高学歴 ・短い居住 ・職業中心の生活 ・自主加入型の地域外活動に参加 |
| クラスターⅡ | 中・高学歴 無職 昭和52年以降に入居 | 地区内サークル、職場サークル、自治会、生協、ボランティア活動、おけいこ事、団地のお祭や運動会、家賃値上げ反対運動、尾根幹線住民運動に非参加。近隣付き合い、地域内友人、親族付き合い少ない。 | 「孤立型」 ・中・高学歴 ・短い居住 ・無職 ・地域内・外の活動に非参加、近隣・友人・親族付き合い少ない |
| クラスターⅢ | 低学歴 無職 子供の養育が生生活目標 長子修学期 昭和51年以前に入居 | 地区内サークル、自治会、生協、ボランティア活動、団地のお祭や運動会、家賃値上げ反対運動、尾根幹線住民運動に参加。近隣付き合い、地域内友人、親族付き合い多い。 | 「地区型」 ・低学歴 ・長い居住 ・無職 ・子供の養育が生活の中心 ・地域内活動に参加、近隣・友人・親族付き合い多い |
| クラスターⅣ | 低学歴 無職 子供の養育が生生活目標 長子幼児期・修学期 昭和51年以前に入居 | 団地のお祭や運動会、家賃値上げ反対運動、尾根幹線住民運動に参加。地区内サークル、職場サークル、地区外サークル、おけいこ事に非参加。近隣付き合い、地域内友人付き合い多い。 | 「近隣型」 ・低学歴 ・長い居住 ・無職 ・子供の養育が生活の中心 ・受動加入型の地域内活動に参加、近隣・友人付き合い多い |
| クラスターⅤ | 低学歴 アルバイト・パートタイマーの職業 長子修学期 | 地区内サークル、自治会、おけいこ事、尾根幹線住民運動に参加。 | 「地区自主活動型」 ・低学歴 ・子供の養育に手が掛からなくなり、アルバイト・パートタイマーとして職業を持つ ・自主加入型の地域内活動に参加 |
| クラスターⅥ | 中・高学歴 常勤の職業 仕事が生生活目標 子のない時期 | 職場サークル、地区外サークル、おけいこ事に参加。生協に非加入。近隣付き合い、地域内友人少ない。 | 「広域自主活動型」 ・中・高学歴 ・職業中心の生活 ・自主加入型の地域外活動に広域型よりも積極的に参加 |

9 分析結果の検討と展望

前節における分析で浮かび上った若干の論点に、考察を加える。

第一に、筆者は、当初、自治会を受動加入型集団と見做していた。しかし、林の数量化理論第Ⅲ類により析出した根を座標上にプロットすると、自治会は自主加入型集団の性質が強いことが判明する(図4-1)。これは、自治会の活動内容を検討することで理解できる。N住区の自治会は、学校、保育園、公園などの整備、病院誘致、鉄道建設などを行政に要求し、これらを実現させた。また、共益費を他の団地よりも低額にさせている(「N公団住宅自治会自治会報」1981年7月号)。このように、活動を通して、自治会は、住環境改善や生活防衛の成果を着々と上げている。自治会員はその便益を享受するけれども、非会員がそれを享受することを排除できない。つまり、非会員は、自治会費という対価なしでその便益を入手しており、いわゆる「ただ乗り」をしている²³⁾。だから、自治会活動の趣旨を十分理解している住民でなければ、自治会に加入しないはずである。このために、団地自治会は自主加入型集団に近い性質を有していると思われる。

ところで、組織と機能において包括的・丸がかえの(地域ぐるみ性)と特徴づけられてきた町内会・自治会が、昨今、漸次変遷していると報告されている。例えば、都市問題の頻発によって、町内会・自治会が圧力団体化する傾向を強めた。集会所、小公園、図書館などの施設管理や子供会・運動会などの活動管理といった、行政管理機関としての性格を強めた。町内会・自治会の民主化が進捗した等々(高橋, 1980: 91-92)。こうした変化は、町内会・自治会が受動加入型集団から自主加入型集団に徐々に変容を遂げたことと関連している。この意味で、本稿の分析結果は、町内会・自治会の性格変化の証左となる。

また、筆者は、友人付き合いを自主加入型の社会関係と見做していたけれども、分析に依れば、その性質が弱いことは歴然としている(図4-1)。従って、近隣・友人・親族付き合いは、すべて相対的に受動加入型の社会関係の性格が強いと思われる。

第二に、理論的仮説で提起した「長屋型」住民は、クラスター分析で検出した「近隣型」住民に、「ホテル型」住民は「広域型」住民と「広域自主活動型」住民に対応すると思われる。そして、大部分の住民は、これらの住民類型に照応するクラスター(クラスターⅠ・Ⅳ・Ⅵ)に分類される。(表13より、クラスターⅠ・Ⅳ・Ⅵに分類されるサンプル数は105であることが判る。)

だが、仮説で予想しなかった、「地区型」、「地区自主活動型」、「孤立型」という住民類型も析出された。「地

区型」住民と「地区自主活動型」住民は、居住地域に帰順するけれども、ムラの秩序から半ば離脱し、(地区内サークルのような)地域内の自主加入型活動に参加している。つまり、団地では、これらの住民が、生活の同質性を背景に、彼らの多種多様な欲求に相応したサークル等の機能集団を自発的に形成している(菊地, 1977: 46)。この他に、地域内・外の活動や付き合いにほとんど関与しない「孤立型」住民が、少なからず存在する。(これに照応するクラスターⅡのサンプル数は29である。)

第三に、クラスター区分と生活の満足度との関連を敷衍したい。クラスターⅠ(広域型)とクラスターⅢ(地区型)は、生活上の満足度が高い。「広域型」住民は地区外の、「地区型」住民は地区内の、自主加入型の活動に参加している。そこで、社会参加の、多寡でなくその種類が、生活上の満足度と関連しているということに思い至った。これを検証するために、クラスター区分を、自主加入型の活動に参加しているクラスター(クラスターⅠ・Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ、以下「自主加入型クラスター」と呼ぶ)と、受動加入型の活動と付き合いのみに関与しているクラスター及び活動と付き合いに関与していないクラスター(クラスターⅡ, Ⅳ, 以下「受動加入型クラスター」と呼ぶ)に分類し、これと生活の満足度とのクロス集計を行なった(表19)。すると、自主加入型クラスターには満足が、受動加入型クラスターには不満が多いことを看取しうる²⁴⁾。それゆえ、次の事が判然とする。社会参加は大切であるけれども、受動加入型の活動や付き合いに耽溺しているだけでは、自らの生活上の諸欲求を十分に充足できない。自らの必要に適う活動に、選択的・自主的に参加し、他の人々と選択的・主体的に社会関係を取り結ぶことによって、生活上の満足は高まる。

表19 クラスター区分と生活の満足度のクロス集計

| クラスター区分 | 生活の満足度 | | | 合計 |
|------------------------------|--------|----|------------|-----|
| | 満足 | 不満 | D.K., N.A. | |
| 自主加入型クラスター (クラスターⅠ・Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ) | 51 | 10 | 0 | 61 |
| 受動加入型クラスター (クラスターⅡ・Ⅳ) | 60 | 25 | 1 | 86 |
| 合計 | 111 | 35 | 1 | 147 |

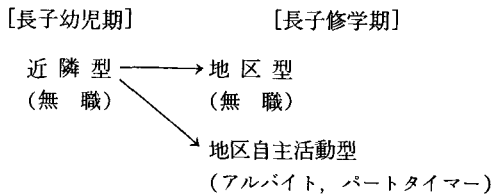
($pr < 0.05$: 片側検定)

第四に、仮説に反し、クラスター区分は、社会階層の指標である夫の職業(威信)や世帯収入と関連していない。むしろ、それは、サンプルである主婦の、学歴、職業の有無、ライフ・サイクル、生活目標と関連している。

そこで、主婦の活動参加や付き合いのパターンが各ライフ・サイクルでいかに変化するかを、学歴別に粗描し、嚮導仮説として提起したい。

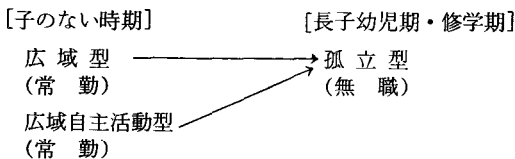
低学歴で職業を持たない、長子幼児期のライフ・サイクルにある主婦は、子供の養育を生活目標としている。子供の養育が桎梏となり、地域内の受動加入型の活動や付き合いにしか関与しえない(近隣型)。長子が成長し、修学期に入ると、主婦は子供にそれ程手が掛からなくなり、地域内の受動加入型の活動や付き合いのみならず、地域内の自主加入型活動にまで関心を向けるようになる(地区型)。また、彼らが、空いた時間を利用して、アルバイトやパートタイマーとして職業を持つようになると活動参加を更に展開し、専ら地域内の自主加入型活動に参加するに至る(地区自主活動型)。そこで、ライフ・サイクルの各段階における、低学歴の主婦の活動参加や付き合いのパターンは次のようになる(図6)。

図6 活動参加と付き合いのパターンの変化
(主婦：低学歴)



中・高学歴で、子供がまだいない時期のライフ・サイクルにある主婦は、常勤の仕事を持っており、仕事を生活目標としている。地域への関心や帰順を余り持たない彼らは、地域外の自主加入型活動に参加している(広域型、広域自主活動型)。ところが、子供が生まれた等の理由で職業をやめると、生活範囲を地域内に限定せざるをえなくなり、地域外の活動を行なわなくなる。その上、彼らは、近隣同志が相互に深い面識を持ち、地域活動や近隣付き合いに深く、積極的に関与する近隣型(あるいは地区型)の生活様式に同調できず、地域内でも孤絶してしまう(孤立型)。そこで、ライフ・サイクルの各段階における中・高学歴の主婦の活動参加や付き合いのパターンは次のようになろう(図7)。

図7 活動参加と付き合いのパターンの変化
(主婦：中・高学歴)



第五に、個人・世帯特性が、活動参加や付き合いにいかなる影響を及ぼしているかを探究したい(表16, 24)。

主婦の学歴についてみると、低学歴のサンプルは、クラスターⅢ(地区型)、クラスターⅣ(近隣型)、クラスターⅤ(地区自主活動型)に多く、中・高学歴のサンプルは、クラスターⅠ(広域型)、クラスターⅡ(孤立型)、クラスターⅥ(広域自主活動型)に多い。前述のように、クラスターⅡは、地域外に関心を向けたいけれども、子供が小さいなどのためにそれができず、地域内・外で余儀なく孤立していると想定できる。すると、低学歴の主婦は地域内に、中・高学歴の主婦は地域外に関心を寄せていると言ってよいことになる。このように、主婦の学歴は、彼女が地域内あるいは地域外に関心を向けるかを規定する。

次に、主婦の職業について考察しよう。常勤の職業を持つサンプルはクラスターⅠ(広域型)、クラスターⅥ(広域自主活動型)に多く、アルバイト・パートタイマーとして職業を持つサンプルはクラスターⅤ(地区自主活動型)に多い。他方、無職のサンプルは、クラスターⅡ(孤立型)、クラスターⅢ(地区型)、クラスターⅣ(近隣型)に多い。端的に言って、クラスターⅠ、Ⅴ、Ⅵは自主加入型の活動や付き合いに関与している。(正確に言えば、クラスターⅢは自主加入型と受動加入型両方の活動や付き合いに関与している)。従って、主婦が職業を持つことは、自主加入型の活動や付き合いに関与することを促すことが判る。

ライフ・サイクルも、自主加入型の活動に関与するか、受動加入型の活動や付き合いに関与するかを規定する。しかし、エラボレーションを行なっていないので、ライフ・サイクルが直接それを規定するのか、あるいは職業の有無(ないし別の変数)を媒介して、それを規定するのかを検証できない。

入居年についてみると、居住期間が長いサンプルはクラスターⅠ(広域型)とクラスターⅡ(孤立型)に多く、居住期間が短いサンプルはクラスターⅢ(地区型)とクラスターⅣ(近隣型)に多い。つまり、予想されるように、居住期間が長い住民は、地域内活動に参加し、近隣付き合いを頻繁にしている。他方、居住期間が短い住民は、地域外活動に参加しているか、社会参加をしていない。ところで、前述のように、主婦の学歴も、地域内あるいは地域外に関心を向けるかを規定していた。そこで、(主婦が低学歴であると居住期間が長くなるというように)学歴が居住期間を規定している可能性が高い。いずれにしても、今後、エラボレーションによって分析を深めてゆく必要がある。

第六に、村落共同体では、生活上の諸問題の解決に当って、個人ないし世帯による自己処理能力が高い。また、水資源のような生活条件の確保をめぐる、部落内の利

害が一致をみやすいので、人々が連帯し、素人による相互扶助的なシステムを形成している。これが自己処理が困難な問題を処理する。利害が一致した地域的範囲内で自己の生活を完結できる村落共同体にコミュニティの原型を求めることができよう。

産業化や都市化が進展すると、様々な職業の人々が同一地域に居住するというように、住民の異質性が高まってゆく。彼らの志向や利害はお互いに相違しているから、住民の利害がコミュニティという場裡で複雑に錯綜する。そこで、村落共同体にみられた近隣住民同志の相互扶助や協力が、都市のコミュニティでは困難となる（コミュニティの地域性と共同性の乖離）。そして、住民に共通に該当し、かつ行政サービスや商業サービスでは十全に解決しえない、生活上の諸問題が発生している。たとえば、主婦が就労するようになり、カギッ子が増加したが、彼らの世話をしてくれる人がいない。急病を煩ったとき、看病をしてくれる人が身近にいない。核家族化によって親が子供を上手に社会化できぬ。ゴミ収集所の清掃やドブ掃除を誰がするか等々。（村落共同体ならば、近隣の協力でこれらを容易に解決しうるであろう。）住民は、これらの生活上の困難に直面するだけでない。利害を共通に持たぬ住民の間の関係は脆弱である。そこで、彼らは、相互に連帯感を持ちえず、不安と孤独感を甘受しなければならない。

こうした日本社会の動向を反映し、コミュニティ形成は提起されている。ここで言うコミュニティとは、「住民が自分たちの幸福な生活を実現するために、自発的に形成・参加し、自律的に運営し、相互の連帯と協力によって地域社会の共通の問題の解決に当る、そのような共同生活のあり方」である（倉沢、1978:139）。

ところで、行政や識者によるコミュニティ形成の提言には、共通に次のような特徴があるように思われる。まず、その政策は、他の住民と協力して生活上の諸問題を解決しなければ、都市生活をおくることが困難であると認識している。次に、それは、コミュニティを精神的拠点と位置づけることにより、（たとえ十分でないにしても）住民の疎外や孤立感を癒し、連帯感を醸成しようと推定している。それから、コミュニティ形成は、すべての住民にとって望ましいと想定している。

さて、本稿で析出した地区型住民は、地域に帰順し、近隣付き合いを頻繁に行なっている。その上、自主加入型の地域内活動に参加しているので、生活の満足度は高い。彼らは、生活の中心を居住地域に置いているから、生活上の諸問題を住民の相互扶助によって解決しうるし、この処理方法を要望するであろう。また、それを契機として、心通う人間関係を形成しようとするであろう。従って、コミュニティ形成が目指す生活様式を最も容易に体现しうるのは、地区型住民である。

無論、コミュニティという住民の相互扶助によらなければ解決しえない若干の生活上の問題も存在する。しかし、このコミュニティ以外に、諸々の自律的な相互扶助システムを思い浮かべることができる。管見によれば、職場を中枢とし、職員の家族をも包含して成立するインフォーマル集団（職場コミュニティ）に自律的な相互扶助システムとしての役割を大いに期待しうる。

縷述したように、広域型住民は、常勤の職業を持っていてから、居住地域に関心を払わず、専ら自主加入型の地域外活動に参加している。彼らは、職場コミュニティや専門家による専門的処理で、生活上の諸問題を解決しようとするであろう。確かに、地区型住民の生活上の満足度は高い。しかしながら、広域型住民の生活上の満足度も高いのであるから、彼らの生活様式も都市生活において肯定されてもよいと思われる。むしろ、それは積極的に評価されるべきではないだろうか。従って、都市生活の様々な問題を処理する方が多様であり、コミュニティの役割に対する住民の期待も様々であることが認識されて然るべきである。

このように、住民の生活様式が、また彼らのコミュニティへの志向や期待が多様であることを考慮すると、生活上の諸問題を解決するためや孤独感を解消するために、コミュニティ形成がすべての住民にとって望ましいと推定することは、必ずしも至当でない。

さて、最も問題を孕むのは、孤立型住民であろう。中・高学歴である彼らは、近隣型や地区型の生活様式に同調しえず、地域外の活動参加や付き合いを志向している。ところが、子供等のために地域に緊縛され、やむなく孤立型の生活様式で暮らしていると推測される。そこで、彼らは、コミュニティ形成の施策を講じても容易に踊らされないような、ある種の疎外の中に深く沈んでいる住民と云いえるのではないだろうか。

最後に、一層有効な住民類型を構成すべく、理論的・方法論的視点から研究の展望を行なう。

宗教活動の参加と地域外友人の人数は、クラスター区分と関連がなく、クラスター区分を構成するために適切な調査項目ではないことが明らかになった。これらに代わる、有意性の高い活動参加・付き合い項目を捜し出したい。そして、項目の取捨選択によって、より有効性の高い住民類型を構成することができる。

次に、調査では、活動参加や付き合いの程度のデータまで得ている。ところが、林の数量化理論第Ⅲ類で分析するために、回答を活動に「参加」と「非参加」、あるいは付き合いが「多い」と「少ない」の2つに分類した。例えば、「あまり活動していない」、「人並には活動している」、「積極的に活動している」はすべて「参加」に分類されている。この処理で、データの情報量を大幅に減少させてしまった。本来ならば、活動参加や付き合いの

程度に基づいて、住民類型を設定することが望ましい。そこで、データの情報量を減少させずに、住民類型を構成する統計技法を工夫してみたい。

7 総括と課題

本稿では、クラスター分析の手法を利用し、活動参加や付き合いに基づいて、都市の集合住宅に居住する住民（既婚主婦）の類型を構成した。ここで、析出した知見を要約しておこう。

第一に、住民の活動参加と付き合いを分類する第1軸は、地域内活動参加と近隣付き合いに対する消極—積極対処の軸であり、また、これは地域内活動（近隣付き合い）—地域外活動参加の軸でもある。第2軸は、自主加入型—受動加入型関与の軸である。

第二に、析出した6つの住民類型とそのプロフィールは次の通りである。「広域型」住民は、中・高学歴である。まだ子供を儲けていないので、常勤の職業を持つことができ、仕事を生活目標としている。彼らは、自主加入型の地域外活動に参加している。「孤立型」住民は、中・高学歴であり、無職である。彼らは、地域内・外の活動と付き合いに関与していない。「地区型」住民は、低学歴で、長子修学期のライフ・サイクルにある。無職で、子供の養育を生活目標としている。彼らは、地域内活動に参加し、近隣付き合いを頻繁に行っている。「近隣型」住民は、低学歴で、長子幼児期か修学期のライフ・サイクルにある。無職で、子供の養育を生活目標としている。彼らは、受動加入型の地域内活動に参加し、近隣付き合いを頻繁に行っている。「地区自主活動型」住民は、低学歴で、長子修学期のライフ・サイクルにある。子供の養育が少し楽になり、アルバイトかパートタイマーとして職業を持っている。彼らは、地区型住民よりも積極的に自主加入型の地域内活動に参加している。「広域自主活動」型住民は、中・高学歴である。子供をまだ儲けていないので、常勤の職業を持つことができ、仕事を生活目標としている。彼らは、広域型住民よりも積極的に自主加入型の地域外活動に参加している。

第三に、あらゆる種類の活動参加や付き合いでなく、自主加入型の活動参加や付き合いが、生活の満足度を高める。

最後に、今後に残された課題に言及しておこう。

本稿では、調査対象者を既婚主婦とし、住民類型を構成した。もし、調査対象者を夫にした場合、主婦とは異なった座標軸やクラスターが現出することが予想される。そこで、今後、本稿の分析手続を踏襲し、夫の住民類型を構成したい。

次に、前節で、ライフ・サイクルの各段階における住民類型の位相変化についての仮説を提起した。しかし、

ある1時点の縦断的データを纏めて、推断したので、仮説にとどまらざるをえない。同一サンプルの時系列データを収集し（パネル調査）、当該仮説の検証を試みたい。

注

- 1) 「任意社会圏」とは、磯村英一の言う「第三空間」に該当する（磯村、1967：17-18）
 - 2) 技術革新を基礎とした産業構造の高度化を産業化、都市的生活様式の拡大・深化の過程を都市化と定義する。ここでは、倉沢進による、都市的生活様式の定義を一応踏襲する。つまり、都市的生活様式とは、第一に、生活上の諸問題の解決に当って、個人的ないし一つの世帯による自己処理能力が低下すること、第二に、一つの世帯だけで処理しえない共通・共同問題の処理は、素人の住民の相互扶助という形態をとらず、専門家による専門的処理に委ねられることである（倉沢、1977a：1977b：1978）。
 - 3) 1969年9月、国民生活審議会調査部会コミュニティ問題小委員会（1973）は「コミュニティ—生活の場における人間性の回復」という報告書を提出した。これを濫觴とし、行政はコミュニティ建設の各種施策を講じている（大森、1982：8）。
 - 4) 本稿では、自治会やサークルのような組織集団への参加のみならず、団地の祭や運動会のような文化行事（一時的・未組織集団）への参加も、住民類型を設定するための調査項目として採用した。両者を言及するために、集団という用語を用いることは不的確であるから、代わりに「活動」という用語を本稿では用いる。
 - 5) グリアの論文の梗概は、倉沢（1971：122）や高橋他（1981：41-43）を参照。
 - 6) 奥田は、市民として開かれた人間になっているか（普遍的価値意識—特殊の価値意識）と主体化の度合い（主体的行動体系—客体的行動体系）の2軸を交差させ、「地域共同体」、「伝統的アノミー」、「近代主義的個我」、及び「コミュニティ」の4つの住民類型を設定する。そして、各類型の特性を明らかにし、原型としての「地域共同体」から、理想としての「コミュニティ」がいかに生成するかを検討した（奥田、1971）。
- 鈴木は、相互主義—利己主義（コミュニティ・モラル）と地域性—開放性（コミュニティ・ノルム）という2軸を組み合わせ、「地域的相互主義」、「地域的利己主義」、「開放的利己主義」、及び「開放的相互主義」の4つの住民類型を設定する。そして、各住民類型が、要求水準、社会構造（統合と溶解）、及び成員構成（土着と流動）といかに関連するかを吟味した（鈴木、1978）。

7) 金子(1982:180-181)は、実証研究の観点から多義的なコミュニティ論を次のように整理する。すなわち、その研究対象として(A)物財(生活環境、生活圏、物財施設)、(B)社会関係、(C)意識があり、その研究方法は(I)記述的(現状分析的)、(II)規範的(価値理念的)に分けられる。彼は、この研究対象と研究方法を組み合わせ、コミュニティ論を整理する。例えば、奥田(1971)や鈴木(1978)のコミュニティ論は、住民の意識を現状分析的に類型化したものであるから、研究対象は意識であり、研究方法は記述的である。また、倉沢(1977a; 1977b; 1978)のコミュニティ論は、住民にとって共通・共同問題を解決するために、素人住民による自律的な相互扶助システムを形成すべきであるという提言と見做しうるから、研究対象は社会関係であり、研究方法は規範的である。

本稿では、住民の社会関係に基づき住民類型を構成するのであるから、金子の整理に従えば、研究対象は社会関係で、研究方法は記述的である。

- 8) この調査では、両地区の住民は、自己の地区と類似した地区に居住する住民を友人に選択するという知見も得られた(Greer, 1956: 23)。
- 9) フィリップス(Phillips, 1973: 246)は、「幸福感は社会参加と関連している。つまり、任意な社会参加をしている(住民)ほど、幸福感を抱く」という仮説を立て、これを調査で検証した。
- 10) 多摩ニュータウンに関する資料は、多摩市の『市勢要覧'78』(多摩市企画部秘書広報課, 1978)と「21世紀のまちづくりをみざす『多摩ニュータウン』」(南多摩新都市開発本部, 1982)などによる。なお、多摩ニュータウンの概略については、江原(1980: 6-9)を参照。
- 11) 多摩ニュータウンの新住宅市街地開発事業施行区域内は、住区と呼ばれる21のブロックに分けられている。住区は、原則として、一つの中学校区を基本的な単位とし、日常生活圏を構成している(南多摩新都市開発本部, 1982: 14)。
- 12) 近隣付き合いを調査すべく、サンプルである既婚主婦に、中層住宅3棟あるいは高層住宅2棟の各地区内における交際相手を番号で指名してもらう方法を取った。本調査の如く、近隣交際をしている相手を指名するように求められたとき、回答者が正確にかつ漏れなく交際相手を指名することは困難な作業と言わねばならない。そこで、回答者が交際相手を整理し、回答を想起することを促すために、次のような工夫を質問文に加えた。
- (1) まず、会えば少なくとも言葉を交わし挨拶する相手を指名させる。

(2) (1)であげられた範囲内から、会えば話し込むこともある相手を指名させる。

(3) (2)であげられた範囲内から、普段から親しく行き来し合っている相手を指名させる。

すなわち、徐々に親密度の高い交際相手を指名させ、交際相手の幅を絞ってゆかせた。そして、回答に付随する困難をできる限り排除しようとした。

(1)の質問で指名される紐帯を弱紐帯、(2)の質問で指名される紐帯を中紐帯、(3)の質問で指名される紐帯を強紐帯と命名した。弱紐帯とは、会えば挨拶する程度以上の付き合いをしている紐帯という意味であるので、サンプルが取り結ぶ弱紐帯の人数には、中紐帯や強紐帯の程度で交際している相手の人数も含まれる。同様に、中紐帯の人数には、強紐帯の程度で交際している相手の人数も含まれる。

グラノベッター(Granovetter, 1973: 1364)は、コミュニティの統合に、強紐帯でなく「橋わたしをする弱紐帯」bridging weak tieが重要な役割を果たすという仮説を提起している。そこで、親密度の低い紐帯の重要性を看過できないと思われるから、弱紐帯及び中紐帯も林の数量化理論第Ⅲ類で分析する項目に含めた。

さて、中層住宅3棟の総戸数は120であり、高層住宅2棟の総戸数は88である。近隣付き合いのデータは、各サンプルがこれらの住民のうちから交際相手を指名したものに基いているので、中層住宅と高層住宅では、被選択者数が異なっている。しかし、被選択者数の多いことは、各サンプルの近隣交際量の多さに直接結びつかない。例えば、本調査では、被選択者数の少ない高層住宅における1人当りの近隣交際量は、被選択者数の多い中層住宅における1人当りの近隣交際量を凌駕している(表20)。そこで、被選択者数の多少の差は黙過してもよいと思われる。

表20 1人当りの近隣付き合い数

(単位:人)

| 近隣付き合い | 地区別 | 中層住宅 | 高層住宅 | 全体 |
|--------|-----|------|------|------|
| 弱紐帯 | | 13.9 | 16.9 | 15.2 |
| 中紐帯 | | 6.5 | 9.0 | 7.6 |
| 強紐帯 | | 1.6 | 2.1 | 1.8 |

両地区における近隣付き合いの実態(中紐帯と強紐帯)を表21に示す。縦軸と横軸に各戸を同一順序で並べ、縦軸を選択する側、横軸を選択される側として表示してある。この表を観察すると、次の事が

表21-1 中層住宅地区内の近隣付き合い (1)

| 被選択 選択 | 階段Ⅰを共有 | | | | | | | | | | 階段Ⅱを共有 | | | | | | | | | | 階段Ⅲを共有 | | | | | | | | | | 階段Ⅳを共有 | | | | | | | | | | 棟外 | |
|-----------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 中紐帯 | 強紐帯 |
| 階段Ⅰを共有 | *1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 0 | |
| | 3 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 階段Ⅱを共有 | *11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 16 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 17 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 18 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *19 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 階段Ⅲを共有 | 21 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 22 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *23 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *24 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *25 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 26 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *27 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 28 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 29 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 階段Ⅳを共有 | 31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *32 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 33 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 34 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *35 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 36 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *37 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 38 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 39 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 40 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

注) ○ 中紐帯 ▨ 強紐帯 * 非該当及び調査不能サンプル

棟外とは、中層住宅地区内で、この棟以外の近隣付き合いの数である。

サンプルの順番は1階～5階、1階～5階……である。

表21-2 中層住宅地区内の近隣付き合い (2)

| 被選択 選択 | 階段Ⅰを共有 | | | | | | | | | | 階段Ⅱを共有 | | | | | | | | | | 階段Ⅲを共有 | | | | | | | | | | 階段Ⅳを共有 | | | | | | | | | | 棟外 | | | | |
|-----------|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|---|---|--|
| | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 | 70 | 71 | 72 | 73 | 74 | 75 | 76 | 77 | 78 | 79 | 80 | 中紐帯 | 強紐帯 | | | |
| 階段Ⅰを共有 | 41 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | |
| | 42 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | | | |
| | 43 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | |
| | 44 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | |
| | 45 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | |
| | 46 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 | 2 | | | |
| | 47 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | 2 | | | |
| | 48 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | |
| | 49 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 1 | | | |
| | 50 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | |
| 階段Ⅱを共有 | 51 | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 0 | | | |
| | *52 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | |
| | 53 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | |
| | 54 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | |
| | 55 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| | *56 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| | 57 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| | 58 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| | 59 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| | 60 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| | 階段Ⅲを共有 | 61 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | |
| 62 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | |
| 63 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| *64 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| *65 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| 66 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| *67 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| *68 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| 69 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 0 | | | |
| *70 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| 階段Ⅳを共有 | 71 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | | |
| | *72 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | |
| | *73 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 3 | |
| | 74 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| | 75 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 3 | | |
| | *76 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | |
| | 77 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | |
| | *78 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 2 | | |
| *79 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| *80 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

注) ○ 中紐帯 ▨ 強紐帯 * 非該当及び調査不能サンプル

表21-4 高層住宅地区内の近隣付き合い (1)

| 被選択 | 1 階 | | 2 階 | | | | 3 階 | | | | 4 階 | | | | 5 階 | | | | 6 階 | | | | 7 階 | | | | 8 階 | | | | 9 階 | | | | 10 階 | | | | 11 階 | | | | 棟 外 | | | |
|------|-----|---|-----|---|---|---|-----|---|---|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|-----|-----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 中紐帯 | 強紐帯 |
| 1 階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 0 |
| 2 階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| 3 階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | | |
| 4 階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | | |
| 5 階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | | |
| 6 階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | | |
| 7 階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | | |
| 8 階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | | |
| 9 階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 0 | | | | |
| 10 階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 11 階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | | | | |

注) ○ 中紐帯 ▨ 強紐帯 * 非該当及び調査不能サンプル

判明する。

(1)近隣付き合いは、各住民が居住する棟内で展開する可能性が高い。

(2)中層住宅では、同一階段を共有する住民と近隣付き合いを行なうことが多いけれども、高層住宅では、押し並べて棟内の各階住民と付き合いを発展させている。恐らく、これは、高層住宅ではエレベーターが設置されており、同一階の4戸を往来できる廊下があることと関連があろう。

これらの事実より、住戸形式という物理的な要因は、近隣付き合いという社会的現象をかなり規定していることを推測しうる。

13) クラスター分析については、安田他(1977: 201-223)を参照した。

14) 分割表の連関の検定については、安田(1969: 189-191)を参照した。なお、5%有意水準(両側危険率)で検定を行なう。

15) 表22 調査項目とクラスター区分とのクロス集計表

| 調査項目 | クラスター区分 回答の分類 | クラスター | クラスター | クラスター | クラスター | クラスター | クラスター | 合計 | 検 定 |
|-------------|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|---------------|
| | | I | II | III | IV | V | VI | | |
| 地区内サークル | 参加(p) | 4 | 0 | 6 | 1 | 3 | 1 | 15 | p< 0.01 |
| | 非参加(c) | 38 | 29 | 4 | 55 | 0 | 6 | 132 | |
| 職場サークル | 参加(p) | 7 | 0 | 2 | 3 | 1 | 5 | 18 | p< 0.01 |
| | 非参加(c) | 35 | 29 | 8 | 53 | 2 | 2 | 129 | |
| 地区外サークル | 参加(p) | 12 | 3 | 2 | 2 | 1 | 7 | 27 | p< 0.01 |
| | 非参加(c) | 30 | 26 | 8 | 54 | 2 | 0 | 120 | |
| 自治会 | 参加(p) | 25 | 1 | 10 | 28 | 3 | 4 | 71 | p< 0.01 |
| | 非参加(c) | 17 | 28 | 0 | 28 | 0 | 3 | 76 | |
| 生 協 | 参加(p) | 7 | 8 | 8 | 27 | 2 | 0 | 52 | p< 0.01 |
| | 非参加(c) | 34 | 21 | 2 | 28 | 1 | 7 | 93 | |
| ボランティア活動 | 参加(p) | 0 | 0 | 5 | 2 | 0 | 0 | 7 | p< 0.01 |
| | 非参加(c) | 42 | 29 | 5 | 54 | 3 | 7 | 140 | |
| 宗 教 活 動 | 参加(p) | 5 | 1 | 0 | 4 | 1 | 0 | 11 | N.S.,pr> 0.05 |
| | 非参加(c) | 37 | 28 | 10 | 52 | 2 | 7 | 136 | |
| お け い こ 事 | 参加(p) | 9 | 0 | 2 | 0 | 3 | 5 | 19 | p< 0.01 |
| | 非参加(c) | 33 | 29 | 8 | 56 | 0 | 2 | 128 | |
| 団 地 の お 祭 | 参加(p) | 10 | 9 | 9 | 36 | 1 | 3 | 68 | p< 0.01 |
| | 非参加(c) | 32 | 20 | 1 | 20 | 2 | 4 | 79 | |
| 団 地 の 運 動 会 | 参加(p) | 1 | 0 | 6 | 12 | 0 | 1 | 20 | p< 0.01 |
| | 非参加(c) | 41 | 29 | 4 | 44 | 3 | 6 | 127 | |
| 家賃値上げ反対運動 | 参加(p) | 30 | 13 | 10 | 51 | 3 | 7 | 114 | p< 0.01 |
| | 非参加(c) | 12 | 16 | 0 | 5 | 0 | 0 | 33 | |
| 尾根幹線住民運動 | 参加(p) | 19 | 0 | 10 | 37 | 3 | 5 | 74 | p< 0.01 |
| | 非参加(c) | 23 | 29 | 0 | 19 | 0 | 2 | 73 | |
| 弱 紐 帯 | 多 | 6 | 6 | 9 | 47 | 2 | 0 | 70 | p< 0.01 |
| | 少 | 36 | 23 | 1 | 9 | 1 | 7 | 77 | |
| 中 紐 帯 | 多 | 6 | 6 | 8 | 41 | 3 | 2 | 66 | p< 0.01 |
| | 少 | 36 | 23 | 2 | 15 | 0 | 5 | 81 | |
| 強 紐 帯 | 多 | 6 | 4 | 9 | 47 | 2 | 1 | 69 | p< 0.01 |
| | 少 | 36 | 25 | 1 | 9 | 1 | 6 | 78 | |
| 地 域 内 友 人 | 多 | 17 | 12 | 9 | 46 | 2 | 2 | 88 | p< 0.01 |
| | 少 | 25 | 17 | 1 | 10 | 1 | 5 | 59 | |
| 地 域 外 友 人 | 多 | 26 | 15 | 7 | 37 | 1 | 5 | 91 | N.S.,pr> 0.05 |
| | 少 | 16 | 14 | 3 | 19 | 2 | 2 | 56 | |
| 親 族 付 き 合 い | 多 | 21 | 10 | 8 | 31 | 2 | 5 | 77 | N.S.,pr> 0.05 |
| | 少 | 21 | 19 | 2 | 25 | 1 | 2 | 70 | |

注) N.S. 調査項目とクラスター区分の間に関連がない。
両側検定

- 16) 比率の差の検定については、安田(1969:188-189)を参照した。5%有意水準(両側危険率)で検定を行なう。なお、各樹の度数が5以下では比率の差の検定ができないから、それは一応の目安である。
- 17) 表23に示すように、サンプルである主婦の年齢は、クラスター区分と関連はない。

- 18) 既に表9に示したように、夫の従業上の地位は、被傭者、業主、役員といった常勤であり、アルバイトやパートタイマーとして勤務している人はいない。
- 19) 内職をしている主婦の職業拘束時間は0時間であるように、職業を持っていてもそれが0時間の場合がある。

表23 主婦の年齢とクラスター区分のクロス集計表

| 年齢 \ クラスター区分 | クラスター I | クラスター II | クラスター III | クラスター IV | クラスター V | クラスター VI | 合計 |
|--------------|---------|----------|-----------|----------|---------|----------|----|
| 20 ~ 30歳 | 15 | 11 | 0 | 19 | 0 | 1 | 46 |
| 31 ~ 40歳 | 15 | 11 | 8 | 27 | 2 | 3 | 66 |
| 41 ~ 50歳 | 8 | 4 | 2 | 9 | 1 | 1 | 25 |
| 51 ~ 60歳 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 2 | 9 |
| D.K., N.A. | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |

(N.S., $pr > 0.05$: 両側検定)

20) 表24-1 個人特性とクラスター区分のクロス集計

| 個人特性 | クラスター区分 | クラスター I | クラスター II | クラスター III | クラスター IV | クラスター V | クラスター VI | 合計 | 検 定 |
|--------------|------------------------|---------|----------|-----------|----------|---------|----------|-----|-----------|
| | 分類 | | | | | | | | |
| 妻の学歴 | 低学歴 | 26 | 17 | 10 | 46 | 3 | 8 | 105 | pr < 0.01 |
| | 中高学歴 | 16 | 12 | 0 | 9 | 0 | 4 | 41 | |
| | D. K., N. A. | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | |
| 妻の有無の職業 | 無職 | 20 | 20 | 7 | 41 | 0 | 1 | 89 | pr < 0.01 |
| | 有職 | 21 | 9 | 3 | 13 | 3 | 6 | 55 | |
| | D. K., N. A. | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 3 | |
| 妻の職業上の地位 | 無職 | 20 | 20 | 7 | 41 | 0 | 1 | 89 | pr < 0.01 |
| | アルバイト・パートタイマー | 5 | 7 | 1 | 6 | 3 | 0 | 22 | |
| | 常勤(被傭者, 家族従業員, 業主, 役員) | 16 | 2 | 2 | 7 | 0 | 6 | 33 | |
| | D. K., N. A. | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 3 | |
| 妻の職業拘束時間 | 0時間 | 21 | 22 | 8 | 44 | 0 | 1 | 96 | pr < 0.01 |
| | 4時間未満 | 0 | 1 | 0 | 3 | 2 | 0 | 6 | |
| | 4時間以上8時間未満 | 3 | 2 | 0 | 3 | 0 | 0 | 8 | |
| | 8時間以上 | 18 | 4 | 2 | 6 | 1 | 6 | 37 | |
| 妻の生活目標 | 仕事 | 10 | 2 | 0 | 3 | 1 | 5 | 21 | pr < 0.01 |
| | 子供の養育 | 24 | 20 | 8 | 51 | 1 | 1 | 105 | |
| | 養育以外の家事 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 5 | |
| | 夫婦の対話 | 4 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 7 | |
| | 趣味, スポーツ, 教養的活動 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 | 1 | 6 | |
| | 社会奉仕活動 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| | その他 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | |
| ライフスタイル | 子のない時期 | 12 | 4 | 0 | 1 | 0 | 4 | 21 | pr < 0.01 |
| | 長子幼児期(小学校入学以前) | 14 | 14 | 0 | 23 | 0 | 2 | 53 | |
| | 長子修学期(小学生~高校生) | 14 | 8 | 10 | 30 | 3 | 0 | 65 | |
| | 長子成人期(大学生・社会人) | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 1 | 5 | |
| D. K., N. A. | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | | |

注) 両側検定

20) 表24-2 世帯特性とクラスター区分のクロス集計

| 世帯特性 | クラスター区分 分類 | クラスター区分 | | | | | | 合計 | 検 定 |
|------------------|-------------------------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|----|-----------------|
| | | クラスターⅠ | クラスターⅡ | クラスターⅢ | クラスターⅣ | クラスターⅤ | クラスターⅥ | | |
| 入居年 | 昭和46年～51年 | 16 | 10 | 8 | 37 | 2 | 3 | 76 | pr < 0.05 |
| | 昭和52年～ | 26 | 19 | 2 | 19 | 1 | 4 | 71 | |
| 夫 の 職 業 | 製造工程，現場作業 | 8 | 5 | 2 | 9 | 0 | 0 | 24 | N.S., pr > 0.05 |
| | 運輸，通信，保安，警察，消防 | 4 | 1 | 0 | 5 | 0 | 1 | 11 | |
| | 事務，販売，サービス (規模299人以下) | 8 | 6 | 1 | 11 | 1 | 1 | 28 | |
| | 専門・技術職 (規模299人以下) | 2 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 | 7 | |
| | 個人・零細企業々主 (規模9人以下) | 1 | 3 | 3 | 3 | 1 | 1 | 12 | |
| | 事務，販売，サービス(規模 300人以上及び官公庁) | 12 | 6 | 4 | 11 | 1 | 0 | 34 | |
| | 自 由 業 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 4 | |
| | 専門・技術職(規模300人以上 及び官公庁) | 4 | 4 | 0 | 7 | 0 | 1 | 16 | |
| | 企業経営者 (規模10人以上の業主，役員) | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | |
| | D. K. , N. A. | 2 | 2 | 0 | 3 | 0 | 3 | 10 | |
| 夫 の 職 業 | 低 | 20 | 12 | 3 | 25 | 1 | 2 | 63 | N.S., pr > 0.05 |
| | 中 | 15 | 10 | 7 | 18 | 2 | 1 | 53 | |
| | 高 | 5 | 5 | 0 | 10 | 0 | 1 | 21 | |
| | D. K. , N. A. | 2 | 2 | 0 | 3 | 0 | 3 | 10 | |
| 世 帯 取 入 | 300万円未満 | 9 | 7 | 2 | 7 | 0 | 2 | 27 | N.S., pr > 0.05 |
| | 300万円以上 400万円未満 | 16 | 9 | 5 | 27 | 1 | 2 | 60 | |
| | 400万円以上 500万円未満 | 5 | 8 | 2 | 14 | 1 | 0 | 30 | |
| | 500万円以上 | 9 | 4 | 1 | 6 | 0 | 2 | 22 | |
| | D. K. , N. A. | 3 | 1 | 0 | 2 | 1 | 1 | 8 | |

注) N.S. 世帯特性とクラスター区分の間に関連がない
両側検定

21) 表25-1 個人特性と生活の満足度のクロス集計

| 個人特性 | 生活の満足度 | | 満 足 | 不 満 足 | D.K.,N.A. | 合 計 | 検 定 |
|--------------------------------------|----------------------------|--|-----|-------|-----------|-----|---------------|
| | 分 類 | | | | | | |
| 妻 学 歴 | 低 学 歴 | | 79 | 26 | 0 | 105 | N.S.,pr> 0.05 |
| | 中 ・ 高 学 歴 | | 31 | 9 | 1 | 41 | |
| | D. K. , N. A. | | 1 | 0 | 0 | 1 | |
| 妻の 有職 無職 | 無 職 | | 70 | 19 | 0 | 89 | N.S.,pr> 0.05 |
| | 有 職 | | 39 | 15 | 1 | 55 | |
| | D. K. , N. A. | | 2 | 1 | 0 | 3 | |
| 妻の 従業 上の 地位 | 無 職 | | 70 | 19 | 0 | 89 | N.S.,pr> 0.05 |
| | アルバイト・パートタイマー | | 15 | 7 | 0 | 22 | |
| | 常勤(被傭者, 家族従 業員, 業主, 役員) | | 24 | 8 | 1 | 33 | |
| | D. K. , N. A. | | 2 | 1 | 0 | 3 | |
| 妻の 職業 拘束 時間 | 0 時 間 | | 74 | 22 | 0 | 96 | N.S.,pr> 0.05 |
| | 4 時 間 未 満 | | 6 | 0 | 0 | 6 | |
| | 4時間以上 8時間未満 | | 6 | 2 | 0 | 8 | |
| | 8 時 間 以 上 | | 25 | 11 | 1 | 37 | |
| 妻の 生活 目標 | 仕 事 | | 14 | 6 | 1 | 21 | N.S.,pr> 0.05 |
| | 子 供 の 養 育 | | 79 | 26 | 0 | 105 | |
| | 養育以外の家事 | | 4 | 1 | 0 | 5 | |
| | 夫 婦 の 対 話 | | 7 | 0 | 0 | 7 | |
| | 趣味, スポーツ, 教 養 的 活 動 | | 5 | 1 | 0 | 6 | |
| | 社 会 奉 仕 活 動 | | 1 | 0 | 0 | 1 | |
| | そ の 他 | | 1 | 1 | 0 | 2 | |
| ラ イ フ ・ サ イ ク ル | 子 の な い 時 期 | | 18 | 3 | 0 | 21 | N.S.,pr> 0.05 |
| | 長 子 幼 児 期 (小学校入学以前) | | 40 | 12 | 1 | 53 | |
| | 長 子 修 学 期 (小学生~高校生) | | 48 | 17 | 0 | 65 | |
| | 長 子 成 人 期 (大学生・社会人) | | 3 | 2 | 0 | 5 | |
| | D. K. , N. A. | | 2 | 1 | 0 | 3 | |

注) N.S. 個人特性と生活の満足度と関連がない
両側検定

21) 表25-2 世帯特性と生活の満足度のクロス集計

| 世帯特性 | 生活の満足度 分類 | 満 足 | 不 満 | D.K.,N.A. | 合 計 | 検 定 |
|------|---------------------------------|-----|-----|-----------|-----|--------------|
| | | | | | | |
| 入居年 | 昭和46年～51年 | 56 | 20 | 0 | 76 | N.S.,pr>0.05 |
| | 昭和52年～ | 55 | 15 | 1 | 71 | |
| 夫の職業 | 製造工程, 現場作業 | 17 | 7 | 0 | 24 | N.S.,pr>0.05 |
| | 運輸, 通信, 保安, 警察, 消防 | 8 | 3 | 0 | 11 | |
| | 事務, 販売, サービス (規模299人以下) | 21 | 7 | 0 | 28 | |
| | 専門・技術職 (規模299人以下) | 7 | 0 | 0 | 7 | |
| | 個人・零細企業々主 (規模9人以下) | 10 | 2 | 0 | 12 | |
| | 事務, 販売, サービス (規模300人以上及び官公庁) | 28 | 6 | 0 | 34 | |
| | 自 由 業 | 2 | 2 | 0 | 4 | |
| | 専門・技術職 (規模300人以上及び官公庁) | 11 | 4 | 1 | 16 | |
| | 企業経営者 (規模10人以上の業主, 役員) | 1 | 0 | 0 | 1 | |
| | D. K. , N. A. | 6 | 4 | 0 | 10 | |
| 夫の職業 | 低 | 46 | 17 | 0 | 63 | N.S.,pr>0.05 |
| | 中 | 45 | 8 | 0 | 53 | |
| | 高 | 14 | 6 | 1 | 21 | |
| | D. K. , N. A. | 6 | 4 | 0 | 10 | |
| 世帯収入 | 300万円未満 | 21 | 6 | 0 | 27 | N.S.,pr>0.05 |
| | 300万円以上 400万円未満 | 45 | 15 | 0 | 60 | |
| | 400万円以上 500万円未満 | 21 | 9 | 0 | 30 | |
| | 500万円以上 | 17 | 4 | 1 | 22 | |
| | D. K. , N. A. | 7 | 1 | 0 | 8 | |

注) N.S. 世帯特性と生活の満足度と関連がない
両側検定

22) 有効性の高い住民類型を構成するために、各クラスターは近隣付き合いについてどのような意見を持っているかを探究してみよう。表26に両者のクロス

集計表を示す。クラスターIIは近隣付き合いを限定しないし断つことを希望しているが、クラスターIVはその拡大を望んでいることを看取しうる。

表26 希望する近隣付き合いとクラスター区分のクロス集計表

| 希望する近隣付き合い \ クラスター区分 | クラスター I | クラスター II | クラスター III | クラスター IV | クラスター V | クラスター VI | 合計 |
|----------------------|---------|----------|-----------|----------|---------|----------|----|
| 交際拡大 | 17 | 9 | 5 | 32 | 2 | 5 | 70 |
| 限定的交際 | 20 | 11 | 5 | 24 | 1 | 2 | 63 |
| 没交渉 | 4 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| D. K., N. A. | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |

($p < 0.05$: 両側検定)

- 23) 「……共益費の交渉はすべて自治会ですし、自転車置場や、植栽、スロープ拡幅その他の環境整備はすべて、自治会が交渉しています。自治会のない団地では、N自治会の3倍強の共益費を払っている団地もあります。非会員の方は、会員の支払う会費に支えられているのです(傍点は筆者)。」(「N公団住宅自治会報」1981年7月号)
- 24) 5%有意水準(片側危険率)であるけれども、統計的に両者の間に関連がある。

文献一覧

新睦人

- 1976 「仮説構成の論理」西田春彦・新睦人(編)『社会調査の理論と技法(I)』川島書店。

江原由美子

- 1980 「調査の概要」『総合都市研究』第9号。

Granovetter, M.S.

- 1973 "The Strength of Weak Tie," *American Journal of Sociology*, Vol.79, No.6.

Greer, S

- 1956 "Urbanism Reconsidered: A Comparative Study of Local Areas in a Metropolis," *American Sociological Review*, Vol.21, No.1.

井関利明・堀内四郎

- 1972 「社会学的類型構成の計量的方法——クラスター分析とその応用——」『慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要』12号。

磯村英一

- 1967 『人間にとって都市とは何か』, 日本放送出

版協会。

金子勇

- 1982 「コミュニティの社会計画」奥田道大他『コミュニティの社会設計』, 有斐閣。

菊地美代志

- 1977 「地域集団」高橋勇悦(編)『テキストブック社会学(5)地域社会』, 有斐閣。

国民生活審議会調査部会コミュニティ問題小委員会

- 1973 「コミュニティ——生活の場における人間性の回復」松原治郎(編)『コミュニティ』(現代のエスプリ No.68), 至文堂。

倉沢進

- 1971 「市民とコミュニティ」柴田徳衛・石原舜介(編)『現代都市学シリーズ(1)都市と市民』, 日本放送出版協会。

- 1977a 「都市的生活様式論序説」磯村英一(編)

『現代都市の社会学』, 鹿島出版会。

- 1977b 「生活の都市化」高橋勇悦(編)『テキストブック社会学(5)地域社会』, 有斐閣。

- 1978 「生活の都市化とコミュニティ」地方自治制度研究会(編)『新コミュニティ読本』, ぎょうせい。

栗原嘉一郎

- 1974 「近隣の人間関係」生活科学調査会(編)『団地のすべて』, ドメス出版。

南多摩新都市開発本部

- 1982 「21世紀のまちづくりをみざす『多摩ニュータウン』」東京都議会議員会局広報課(編)『都議会レポート』6月号。

大森彌

- 1982 「現代に甦るコミュニティ」奥田道大他『コ

- 岡村益
1972 ミュニティの社会設計』, 有斐閣。
「家族周期と生活構造」森岡清美(編)『社会学講座5 家族社会学』, 東京大学出版会。
- 奥田道大
1971 「コミュニティ形成の論理と住民意識」磯村英一・鶴飼信成・川野重任(編)『都市形成の論理と住民』, 東京大学出版会。
- Phillips, Derek L.
1967 "Social Participation and Happiness," *American Journal of Sociology*, Vol.72, No.5.
- 鈴木広
1976 「都市社会構造論序説」九州大学社会学会(編)『現代社会学の成果と課題』。
1978 「コミュニティ論の今日の状況」鈴木広(編)『コミュニティ・モラルと社会移動の研究』, アカデミア出版会。
- 高橋和宏・野辺政雄
1981 「ローカル・アタッチメント再考 — 住民類型論序説 —」『総合都市研究』第12号。
- 高橋勇悦
1980 「地域社会の社会構造」蓮見音彦・奥田道大(編)『地域社会論』, 有斐閣。
多摩市企画部秘書広報課
1978 『市勢要覧 '78』
- 安田三郎
1969 『社会調査ハンドブック(新版)』, 有斐閣。
安田三郎・海野道郎
1977 『改訂2版 社会統計学』, 丸善。
座談会
1975 「団地のすべて — 家賃から子供の教育, お祭まで —」『経済』11月号, 新日本出版社。
全国公団住宅協議会
1981 「団地のひろば — 団地生活白書第2集」

SOME TYPE OF HOUSING CORPORATION RESIDENTS

An Attempt at Classification by Cluster Analysis

Kazuhiro Takahashi* and Masao Nobe**

*Center for Urban Studies, Tokyo Metropolitan University

**Graduate School of Sociology, Tokyo Metropolitan University

Comprehensive Urban Studies, No. 16, 1982, pp. 109–142.

The purpose of this paper is to construct a classification of certain types of residents (housewives) in a housing corporation apartment complex (*danchi*) on the basis of social participation. For this purpose, the author adopts the technique of cluster analysis. The analysis reveals the following:

(a) The first axis in differentiating various kinds of social participation is positive and negative attitudes towards participation in residential area activities and towards neighborhood relationships. This factor also includes participation in activities within and outside the residential area. The second axis is achieved and ascribed social participation.

(b) The cluster analysis yields the following six types of peoples:

Those oriented outside the area tend to have middle or high academic backgrounds. As they do not have children, they are able to hold full-time jobs, and see their careers as their life-work. They participate in achieved activities outside their residential areas.

Isolated people have middle or high academic backgrounds, but do not hold jobs. They do not participate in social activities inside or outside their residential area.

Those oriented inside the area have lower academic backgrounds, and their eldest children are in school. They do not work, and make child-rearing their life-work. They participate in achieved and ascribed activities inside the residential area, and have neighborhood relationships.

Neighborhood-oriented people have low academic backgrounds, with their eldest children either in infancy or in school. They do not work, and make child-rearing their life-aims. They participate in ascribed activities inside the residential area, and have neighborhood relationships.

Those voluntarily oriented inside to the area have low academic backgrounds, and eldest children in school. As they have some time to spare from bringing up their children, they hold part-time jobs. They participate in achieved activities inside the area more positively than those oriented inside the area.

Those voluntarily oriented outside the area have middle or high academic backgrounds. As they do not have children, they can have full-time jobs and make their jobs their life-work. They participate in achieved activities outside the area more positively than those oriented outside the area.

(c) Not all kinds of social participation, but achieved social participation satisfy people.

図4-1 活動参加と近隣・友人・親族付き合い
 (第1根と第2根)
 [P.116 参照]

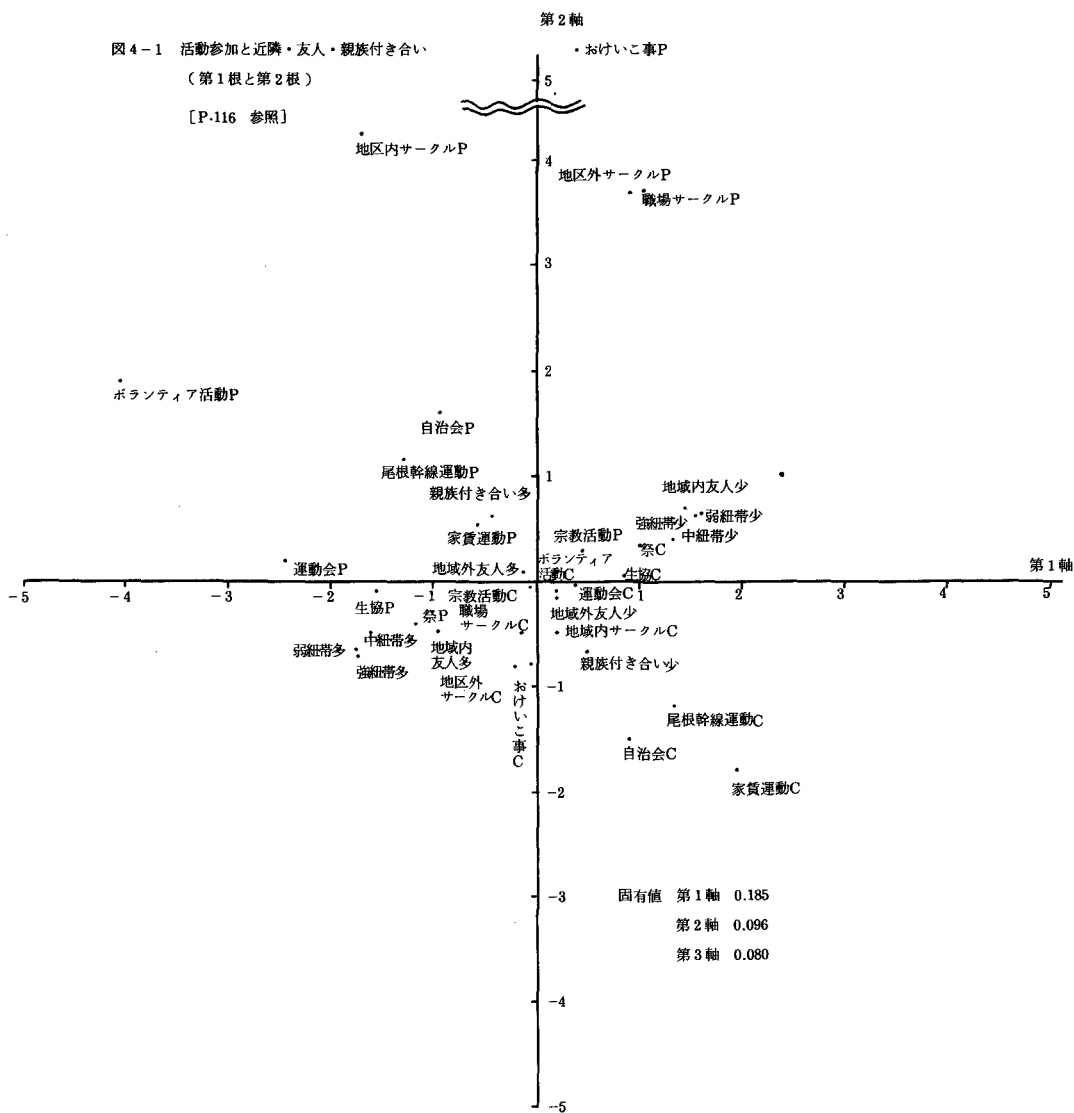


図4-2 活動参加と近隣・友人・親族付き合い
 (第1根と第3根)
 [P.116 参照]

